

港区生涯学習推進計画（令和3年度～令和8年度）の進捗について

報告内容

港区生涯学習推進計画（令和3年度～令和8年度）に掲載している事業の進捗状況（令和5年度末時点）を報告します。

1 生涯学習推進計画に掲載している事業数

78事業

※事業名等の詳細は別紙1のとおり

2 各事業の進捗

進捗管理票（別紙2及び参考資料）のとおり

(1) 年次計画・成果指標を記載している事業（別紙2）

取組の年次計画及び成果指標を掲載している事業について、令和5年度末における進捗を記載しています。

なお、事業の取組や成果の進捗は以下の区分で示しています。

- a：前期3年間の目標を上回って達成した。
- b：前期3年間の目標どおり達成した。
- c：前期3年間の目標に到達しなかった。
- －：指標値を把握できない。

《進捗状況別事業数一覧》

| 進捗状況 | a | b | c | － | 計 |
|------|---|---|---|---|---|
| 事業数 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |

(2) その他の事業（参考資料）

年次計画・成果指標を記載していない事業（別紙2以外の事業）について、令和5年度末における進捗を記載しています。

基本目標1 多様な年代、ライフスタイルに応じた学びの機会の提供

| 施策 | 重点新規 | 事業名 | 計画書掲載頁 | 担当課 |
|--------------------------|------|----------------------------|--------|-------------------------------|
| (1) いつでも、誰でも参加できる学習環境の提供 | 新規 | ① 誰でも学べる機会の提供 | 41 | 生涯学習スポーツ振興課/障害者福祉課 |
| | 重点 | ② 生涯学習事業のオンライン配信の推進 | 41 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ 情報化社会に対応できる学習活動の推進 | 42 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ④ 港ユネスコ協会の支援 | 42 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ⑤ いちよう学級事業の実施 | 42 | 障害者福祉課 |
| | — | ⑥ 障害者学習活動の支援 | 42 | 障害者福祉課 |
| | — | ⑦ 講習・講演会の充実及び障害者自身の自己啓発の支援 | 42 | 障害者福祉課 |
| (2) ライフスタイルに応じた学びの機会の充実 | — | ① 自主的な家庭教育学級の支援 | 43 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② PTAとの連携 | 43 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | 新規 | ③ 青年期の学びの場の創出 | 44 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ④ 放課GO→・放課GO→クラブの実施 | 44 | 各総合支所管理課/子ども若者支援課/生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ⑤ 青少年対策地区委員会の活動支援 | 44 | 各総合支所協働推進課/子ども若者支援課 |
| | — | ⑥ 母子保健健康教育の実施 | 44 | 健康推進課 |
| | — | ⑦ 子育て講座の開催 | 44 | 子ども家庭支援センター |
| | — | ⑧ 平和青年団の派遣 | 45 | 人権・男女平等参画担当 |
| | — | ⑨ いじめ防止に関する講演会の開催 | 45 | 教育指導担当 |
| | — | ⑩ 小中学生海外派遣の充実 | 45 | 教育指導担当 |
| | — | ⑪ 消費者問題推進員の育成・支援 | 45 | 産業振興課 |
| | — | ⑫ 消費者教育の充実 | 45 | 産業振興課 |
| | — | ⑬ 港区が有する強みを生かせる人材の育成 | 45 | 産業振興課 |
| | — | ⑭ 地域防災を担う人材の育成 | 46 | 防災課 |
| | — | ⑮ 防犯学習機会の提供 | 46 | 危機管理・生活安全担当 |
| | — | ⑯ 小・中学生の環境に関する自主研究の実施 | 46 | 地球温暖化対策担当 |
| | — | ⑰ あきる野環境学習の実施 | 46 | 地球温暖化対策担当 |
| | — | ⑱ エコプラザにおける環境学習などの推進 | 46 | 地球温暖化対策担当 |
| | — | ⑲ 緑と生きもの観察会・調査会の開催 | 47 | 環境課 |
| | — | ⑳ (仮称)文化芸術ホール整備に向けた気運醸成 | 47 | 国際化・文化芸術担当 |

| 施策 | 重点新規 | 事業名 | 計画書掲載頁 | 担当課 |
|------------------------|------|--------------------------|--------|------------------|
| | — | ㉑ 介護予防事業の実施 | 47 | 高齢者支援課 |
| | — | ㉒ 地域型認知症予防事業の実施 | 47 | 高齢者支援課 |
| | — | ㉓ 歩いて学んで楽しむミュージアム巡り事業の実施 | 47 | 高齢者支援課 |
| | — | ㉔ こころの病気等の普及・啓発 | 47 | 健康推進課 |
| | — | ㉕ 自殺予防のための情報提供と普及・啓発 | 48 | 健康推進課 |
| (3)多様な学習資源を生かした学びの場の提供 | — | ① 生涯学習出前講座の充実 | 49 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② 芝 BeeBee's プロジェクトの実施 | 49 | 芝地区総合支所協働推進課 |
| | — | ③ 親子でエコっとプロジェクトの実施 | 49 | 麻布地区総合支所まちづくり課 |
| | — | ④ バイエリアみどりでつなぐプロジェクト | 49 | 芝浦港南地区総合支所まちづくり課 |
| | — | ⑤ エコライフ・フェアMINATOの実施 | 49 | 地球温暖化対策担当 |

基本目標2 生涯学習施設の充実及び区有施設、地域団体や民間企業等との連携による、学びの機会の提供

| 施策 | 重点新規 | 事業名 | 計画書掲載頁 | 担当課 |
|-----------------------|------|----------------------------------|--------|------------------------------------|
| (1)生涯学習施設機能の充実 | 重点 | ① 生涯学習情報の発信強化 | 50 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② 生涯学習施設の環境の整備 | 51 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ 生涯学習情報の提供 | 51 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| (2)区有施設における多様な学びの場の提供 | 新規 | ① 児童館及び子ども中高生プラザの充実 | 52 | 各総合支所管理課/子ども若者支援課 |
| | 新規 | ② 伝統文化交流館における講座の充実 | 52 | 芝浦港南地区総合支所管理課 |
| | 新規 | ③ 図書館における学びの場の提供 | 52 | 図書文化財課 |
| | 新規 | ④ 郷土歴史館での講座の実施 | 52 | 図書文化財課 |
| | 新規 | ⑤ みなと科学館における体験する場の提供 | 53 | 教育指導担当 |
| | — | ⑥ いきいきプラザ等による活動の場の充実 | 53 | 各総合支所管理課/高齢者支援課 |
| | — | ⑦ 男女平等参画センターの充実 | 53 | 人権・男女平等参画担当 |
| | — | ⑧ エコプラザにおける環境学習などの推進 [再掲] | 53 | 地球温暖化対策担当 |
| (3)様々な主体との連携 | — | ① PTAとの連携 [再掲] | 54 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② 港ユネスコ協会の支援 [再掲] | 54 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ 青少年対策地区委員会の活動支援 [再掲] | 54 | 各総合支所協働推進課/子ども若者支援課 |
| | — | ④ 芝・ネイチャー大蔵校における自然体験機会の創出 | 54 | 芝地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑤ チャレンジコミュニティ大学におけるリーダー養成 | 55 | 高輪地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑥ 地域間子ども交流 ～あらたなはっけん あらたなきずな～の実施 | 55 | 麻布地区総合支所管理課/麻布地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑦ 子ども地域間交流事業 ～離れていても心は一つ！～の実施 | 55 | 赤坂地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑧ 赤坂・青山子ども共育事業の実施 | 55 | 赤坂地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑨ たかなわ子どもコミュニティカレッジにおける交流の促進 | 56 | 高輪地区総合支所管理課 |
| | — | ⑩ 歴史と文化がつなぐ地域交流事業の実施 | 56 | 芝浦港南地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑪ 港区スポーツふれあい文化健康財団の支援 | 56 | 地域振興課/国際化・文化芸術担当/健康推進課/生涯学習スポーツ振興課 |

基本目標3 学びの成果を地域に活かすためのきっかけや仕組みづくり及び参画・協働の推進

| 施策 | 重点新規 | 事業名 | 計画書掲載頁 | 担当課 |
|--------------------------|------|--------------------------------|--------|---------------|
| (1)学びの成果を活かす機会の提供 | — | ① 生涯学習講座提供事業(まなび屋)の充実 | 57 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② 社会教育関係団体の活動成果の発表 | 57 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ 協働参画体験講座の開催 | 58 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ④ 芝の語り部養成講座の開催 | 58 | 芝地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑤ チャレンジコミュニティ大学におけるリーダー育成 [再掲] | 58 | 高輪地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑥ 観光ボランティアの支援 | 59 | 観光政策担当 |
| | — | ⑦ 介護予防リーダーの養成 | 59 | 高齢者支援課 |
| (2)学びを地域へつなげていくための仕組みづくり | 重点 | ① 学びの循環の仕組みづくり | 60 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② さくらだ学校の運営 | 60 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ ご近所イノベーション学校の実施 | 61 | 芝地区総合支所協働推進課 |
| | — | ④ あざぶ達人ラボ～次世代へつなぐ麻布の魅力～の開催 | 61 | 麻布地区総合支所協働推進課 |
| | — | ⑤ みんなでまちをよくする「ミナヨク」の実施 | 61 | 麻布地区総合支所協働推進課 |
| (3)学びの活動における参画・協働の推進 | 重点 | ① 地域学校協働活動の推進 | 62 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ② 青少年の健全育成のための支援 | 63 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ③ 学校施設開放の活用推進 | 63 | 生涯学習スポーツ振興課 |
| | — | ④ 港区が有する強みを活かせる人材の育成 [再掲] | 63 | 産業振興課 |
| | — | ⑤ 消費者問題推進員の育成・支援 [再掲] | 63 | 産業振興課 |
| | — | ⑥ 地域防災を担う人材の育成 [再掲] | 63 | 防災課 |
| | — | ⑦ みなと環境にやさしい事業者会議の支援 | 64 | 地球温暖化対策担当 |

<進捗状況の区分>
 a:前期3年間の目標を上回って達成した。
 b:前期3年間の目標どおり達成した。
 c:前期3年間の目標に到達しなかった。
 -:指標値を把握できない。

| No.(基本目標-施策-事業) | 掲載ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 進捗状況 | |
|---|-----------------|-------|--|--|--|----------------------------------|---|
| 1-(1)-② | 41 | ○ | — | 生涯学習事業のオンライン配信の推進 | 生涯学習スポーツ振興課 | a | |
| 事業・取組の内容 「生涯学習講座の動画配信事業」では、区や関係団体が実施する生涯学習に関する講座等を撮影し、必要に応じて学習できるよう、区のホームページ等で動画を配信しており、今後も、関係団体との連携を強化し、配信内容の充実を図る。また、どのような状況下でも学びが継続できるよう、生涯学習講座をオンライン配信するための環境整備に取り組むとともに、講座や講演会などのオンライン対応を推進する。 | | | | | | 進捗状況 | |
| | | 前期3年間 | | | 後期 | 実績の評価(前期3年間(R3~R5)) | 事業の課題や改善が必要な事項 |
| | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和8年度末 | | |
| 取組目標 | オンラインの講座数 | 年次計画 | 2講座 | 3講座 | 4講座 | 33講座 ※アーカイブ化した配信講座を含む | ・コロナ禍でオンラインによる講座数を増やしてきたが、令和5年5月の5類移行に伴い、参集型講座への受講希望が増加したことから、オンラインによる講座数は減少したが、目標は達成した。 ・オンライン受講者も一定数存在することから、参集型とオンライン型を組み合わせるハイブリット方式の講座開催も取り入れて実施した。 |
| | | 実績 | 8講座 ・生涯学習施設講座:5講座 ・社会教育関係団体向け研修:1講座 ・まなマルシェ:2講座 | 5講座 ・生涯学習施設講座:3講座 ・社会教育関係団体向け研修:1講座 ・まなマルシェ:1講座 | 4講座 ・生涯学習施設講座:2講座 ・社会教育関係団体向け研修:1講座 ・まなマルシェ:1講座 | | |
| 成果指標① | オンライン講座の受講者数/年間 | 指標① | 30人 | 45人 | 60人 | 11,000人 ※アーカイブ化した配信講座の視聴者数を含む | 今後の取組 |
| | | 実績 | 118人 | 103人 | 98人 | | |
| 成果指標② | | 指標② | — | | | | いつでも、どこでも、誰でも講座を受講できるよう、オンライン形式のみならず、講座によって形式(ハイブリット、アーカイブ等)を検討していくとともに、幅広い分野の内容で動画配信を行う。 |
| | | 実績 | — | | | | |
| 成果指標③ | | 指標③ | — | | | | |
| | | 実績 | — | | | | |

| No.(基本目標-施策-事業) | 掲載ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 進捗状況 | |
|--|----------------------------|-------|-------|-------------|-------------|--------------------------------------|--|
| 2-(1)-① | 50 | ○ | — | 生涯学習情報の発信強化 | 生涯学習スポーツ振興課 | b | |
| 事業・取組の内容 生涯学習情報をより多くの人に提供するために、学習情報ルームで収集した生涯学習情報や社会教育関係団体の活動紹介などの情報を電子化し、ICTを活用した閲覧環境の整備に取り組む。また、生涯学習センターのホームページの機能向上を図るとともに、様々な生涯学習の情報や、社会教育関係団体等の活動に関する情報を迅速に発信する。さらに、事業の対象者に直接的に情報が行きわたるよう、SNS等を活用した講座や講演会の案内、事業の対象者に直接的に情報が行きわたるような工夫を行うなど、生涯学習情報を積極的に発信する。 | | | | | | 進捗状況 | |
| | | 前期3年間 | | | 後期 | 実績の評価(前期3年間(R3~R5)) | 事業の課題や改善が必要な事項 |
| | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和8年度末 | | |
| 取組目標 | ICTを用いた情報発信数 | 年次計画 | 430回 | 450回 | 470回 | 650回 | ・生涯学習スポーツ振興課及び生涯学習施設で、SNS等を活用した生涯学習情報等の積極的な発信に取り組んだことにより、目標を大きく上回る実績となった。 |
| | | 実績 | 333回 | 1565回 | 818回 | | |
| 成果指標① | ICTを用いた情報発信によって事業に参加した人の割合 | 指標① | 30% | 35% | 40% | 1,100人 ※R6から「生涯学習講座に参加した人数」に指標を変更 | 今後の取組 |
| | | 実績 | 26% | 16% | 15% | | |
| 成果指標② | | 指標② | — | | | | より魅力ある講座を企画することをはじめ、発信内容やタイミングを工夫するなど、ICTでの情報発信により事業参加が促進されるよう効果的な発信に取り組む。 |
| | | 実績 | — | | | | |
| 成果指標③ | | 指標③ | — | | | | |
| | | 実績 | — | | | | |

<進捗状況の区分>
 a:前期3年間の目標を上回って達成した。
 b:前期3年間の目標どおり達成した。
 c:前期3年間の目標に到達しなかった。
 -:指標値を把握できない。

| No.(基本目標-施策-事業) | 掲載ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | | |
|-----------------|---|-------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---------------------|---|
| 3-(1)-① | 62 | ○ | — | 地域学校協働活動の推進 | 生涯学習スポーツ振興課 | | |
| 事業・取組の内容 | 地域の人材等の協力を得て、地域と学校が一体となって、子どもたちの学びや成長、コミュニティづくりを支えるため、地域と学校が連携・協働し、各学校の実情に応じた活動ができる体制を構築する。 学校のニーズに沿ったきめ細かな支援が行えるよう、地域学校協働本部の設置を進め、地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを配置し、地域と学校の一層の連携強化を図る。 また、総合的な学習の時間等における出前授業や職場訪問・職場体験に協力を得られる企業・NPO等の情報を学校へ提供する。 | | | | | | 進捗状況 |
| | | | | | | | b |
| | | 前期3年間 | | | 後期 | 実績の評価(前期3年間(R3~R5)) | 事業の課題や改善が必要な事項 |
| | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和8年度末 | | |
| 取組目標 | 地域学校協働本部設置数 | 年次計画 | 25本部 | 27本部 | 29本部 | 41本部 (設置率100%) | 令和3年度は、麻布幼稚園及び白金の丘学園白金の丘小学校、白金の丘中学校の3校(園)、令和4年度は、南山幼稚園及び南山小学校、高陵中学校の3校(園)。 令和5年度は、本村小学校及び本村幼稚園の2校(園)に地域学校協働本部を新設したことにより、計30本部の設置となり、年次計画を上回った。 |
| | | 実績 | 25本部 幼稚園 4園 小学校13校 中学校 8校 | 28本部 幼稚園 5園 小学校14校 中学校 9校 | 30本部 幼稚園 6園 小学校15校 中学校 9校 | | |
| 成果指標① | 地域と学校の連携が図れていると感じる協働本部の割合 | 指標① | 70% | 73% | 76% | 90% | 学校が必要とするボランティアを地域で確保できていると感じている協働本部は多く、目標に近い数値となった。 |
| | | 実績 | 67% | 71% | 73% | | |
| 成果指標② | | 指標② | — | | | | ・必要なボランティアを確保するため、地域人材(青少年委員等)を紹介したり、近隣校間の相互協力を促進する。 ・未設置校(園)から相談があった場合には、事業の理解を深めてもらえるように丁寧に対応する。また、設置に向けて課題がある場合は、解決に向けて一緒に検討していく。 |
| | | 実績 | — | | | | |
| 成果指標③ | | 指標③ | — | | | | |
| | | 実績 | — | | | | |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------------|------------------------------------|---|---|---|---|-----------------|---|---|---------------------------|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 1-(1)-① | 41 | — | ○ | 誰でも学べる機会 の提供 | 生涯学習 スポーツ 振興課/障 害者福祉 課 | 誰でも学べる環境を整えるため、障害の有無 等にかかわらず、既存の生涯学習を実施でき る仕組みをつくる。受講者のニーズを聞きな がら、生涯学習事業等で講師登録のある人や 社会教育関係団体等を、障害保健福祉セン ター等に紹介することで、様々な分野の講座 を開催する。さらに、講師や受講者同士の交 流を図るなど、誰でも学び合える環境を提 供する。 | ・障害保健福祉センターで講 座を1回実施 ・参加者:12名 | ・障害保健福祉センターで講 座を2回実施、参加人数25人 ・精神障害者支援センター1回 実施、参加人数11人 | ・障害保健福祉センターで講 座を2回(1回は連続3回の講 座)実施、参加人数34人 ・精神障害者支援センターで 講座を1回実施、参加人数9人 | — | 障害保健福祉センターと精神 障害者支援センターで講座を 実施したが、どちらも健常者 の参加があり、障害の有無等 にかかわらず、多様な参加者 が一緒に学ぶ事業を創出する ことが出来た。 | 引き続き、障害の有無等にか かわらず、だれでも学び合 え受講者同士の交流が図れる 実施内容を検討し、実施する。 | 生涯学習スポーツ 振興課 | 三輪 | 4711 |
| 1-(1)-③ | 42 | — | — | 情報化社会に対応 できる学習活動の 推進 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 生涯学習の機会は、情報通信技術の発達に伴 い、新聞等の紙媒体やテレビ、ラジオだけで なくパソコンやスマートフォン、タブレット端 末等、多岐にわたり提供されているため、誰 でも気軽にパソコンやスマートフォン、タブ レット端末等を活用できるよう、使い方に関 する講座を開催するなど、情報化社会に対応 できる学習活動を推進する。 | パソコンやスマートフォン・タ ブレット端末を利用したオンラ イン会議システムの使い方 に関する講座を生生涯学習セン ターで令和4年3月に実施し た。 | Zoomの使い方に関する講 座を生生涯学習センターで令和 5年3月に実施した。 | Zoomの使い方に関する講 座を生生涯学習センターで令和 6年3月に実施し、9人が参加 した。 | — | 誰でも気軽にオンラインツ ールを活用できるよう、初めて の方向けに使い方に関する講 座を開催した。 | 引き続き、オンラインツ ールを誰もが気軽に利用でき るよう、実践的な講座を開催し ていく。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 若松 | 2744 |
| 1-(1)-④ | 42 | — | — | 港ユネスコ協会へ の支援 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 区民の国際的相互理解及び親善を促進す るため、港ユネスコ協会が実施する各国の文化 を紹介する講座や、日本文化の体験講座等の 活動を支援する。 | スピーチコンテスト、シンポ ジウム、国際交流講座、文化体 験講座など13回講座を実施 した。 | スピーチコンテスト、シンポ ジウム、国際交流講座、文化体 験講座など15回講座を実施し た。 | スピーチコンテスト、シンポ ジウム、国際交流講座、文化体 験講座など計16講座を実施 した。 | — | 区民の国際的相互理解及び 親善を促進する取組を実施し た。 | 引き続き、区民の国際的相 互理解及び親善を促進するた め、港ユネスコ協会が実施す る各国の文化を紹介する講座 や、日本文化の体験講座等の 活動を支援する。 | 生涯学習スポーツ 振興課生涯学習係 | 阿部 | 2741 |
| 1-(1)-⑤ | 42 | — | — | いちよう学級事業 の実施 | 障害者福 祉課 | 知的障害者が、学習やスポーツ、レクリエ ーション等とおして、社会参加への適応力 を高めるとともに、仲間づくりの場とするこ とにより、豊かな人間形成の向上に役立 てます。港区役所、みなとパーク芝浦を主 な活動場所とし、講師の指導によるスポ ーツや工作、調理実習、受講生がプロ グラムを考える自主企画、宿泊事業 を実施する。また、「いちよう学級だ より」を関係者に送付する。 | ・年間活動回数 7回 ・受講者数:延255人 | ・年間活動回数:13回 ・受講者数:延466人 | ・年間活動回数:13回 ・受講者数:延507人 | — | 新型コロナウイルス感染症の 感染対策を十分に行いつつ、 活動内容を工夫しながら、受 講者数の増加につなげた。R5 年度は、数年ぶりに宿泊活動 を行うことができた。 受講者の年齢層が幅広く、そ れぞれに対応した取組の実施 が課題である。 | 幅広い年齢層(20代から 70代まで)の受講者にとっ て、より一層有意義な取組と なるよう、実施内容を工夫し て事業を進める。 | 障害者福祉課 障害者福祉係 | 上川原 | 2670 |
| 1-(1)-⑥ | 42 | — | — | 障害者学習活動の 支援 | 障害者福 祉課 | 区内の障害者団体による自主的な学習会 や講演会を行う時の講師謝礼などを助成す る。障害者団体の会員を対象として実施 する学習活動を支援することで、団 体の育成に寄与し、障害者の福祉増進 を図る。 | 14団体に対し、合計 394,500円を助成した。 | 18団体に対し、合計 744,750円を助成した。 | 17団体に対し、合計 720,500円を助成した。 | — | 新型コロナウイルス感染症の 影響のため、学習活動を中止 する団体もあったが、障害者 団体の自主的な学習活動に対 して支援を行い、障害者が学 習する機会を確保した。 | 引き続き、障害者団体が自 主的に企画し、実施する様々 な学習活動を支援すること で、障害者の学習機会を確保 するとともに、団体の育成に 寄与する。 | 障害者福祉課 障害者福祉係 | 野田 | 2670 |
| 1-(1)-⑦ | 42 | — | — | 講習・講演会の充 実及び障害者自身 の自己啓発の支援 | 障害者福 祉課 | 障害者が学習やスポーツをと して交流する機会を確保するた め、講習・講演会やスポーツ 教室の充実を図る。障害保健福祉 センター等における各種講座 の実施により、障害者自身 の自己啓発等を支援する。 | ・障害保健福祉センターにお ける各種講座等の実施 ・18教室開催 ・延782名参加 | ・障害保健福祉センターにお ける各種講座等の実施 ・13教室開催 ・延1127名参加 | ・障害保健福祉センターにお ける各種講座等の実施 ・13教室開催 ・延1089名参加 | — | 感染症感染防止対策を踏ま えて、実施する。 | 幅広い内容の講座を実施す ることにより、障害者の交流 の機会の確保と、障害者自身 の自己啓発に役立つよう支 援していく。 | 障害者福祉課 障害者施設係 | 漆家 | 2388 |
| 1-(2)-① | 43 | — | — | 自主的な家庭教育 学級の支援 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 保護者が家庭教育について考え、知識を深 めるために、区立幼稚園、小学校、中 学校の各PTAや、社会教育関係団 体に登録している子育てグル ープ等が自主的に企画・運営す る講座に対し、講師謝礼を負担 する。また、必要に応じて保 育スタッフを配置し一時保育を 行う。 | 各PTAが中心になり家庭教 育についての講座を6件企 画・開催し、講師謝礼を負担 することで自主的な取組を支 援した。 | 8園の幼稚園PTA(各1回)及 び幼稚園PTA連合会(1回)が 講座を企画・開催し、講師謝 礼を負担することで自主的な 取組を支援した。 | 7園の幼稚園PTA及び幼 稚園連合会(1回)が講座を企 画・開催し、講師謝礼を負担 することで自主的な取組を支 援した。 | — | 各PTAが中心となり、家庭 教育についての講座を企画・ 開催した。申請件数の増加が 課題 | 引き続き、区立幼稚園、小 学校、中学校の各PTAや、社 会教育関係団体に登録してい る子育てグループ等が自主的 に企画・運営する講座に対し 、講師謝礼を支援する。また、 必要に応じて保育スタッフを 配置し一時保育を行う。 | 生涯学習スポーツ 振興課生涯学習係 | 阿部 | 2741 |
| 1-(2)-② | 43 | — | — | PTAとの連携 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 青少年健全育成や学校教育活動に大きく 貢献しているPTAの活動を支援 するとともに、PTAと連携・協 働した取組を推進する。区立小 ・中学校PTAが主催する児童・ 生徒の体験(自然・交流)事業 の交通費の全額又は一部補助 、研修会・講演会、教育委員 会との懇談会等を実施する。 また、小学校PTA連合会と協 働して、自分たちの住む「ま ち」を知り、考えることを目 的とした「子どもセミナー事 業」も実施する。 | ・体験(自然・交流)事業申請 件数:11件 ・懇談会:4回 ・子どもセミナー事業(令和 3年10月20日実施)参加者: 49人 | ・体験(自然・交流)事業申請 件数:8件 ・懇談会:4回 ・子どもセミナー事業(令和 4年11月16日実施)参加者: 55人 | ・体験(自然・交流)事業申請 件数:11件 ・懇談会:3回 ・子どもセミナー事業(令和 5年11月1日実施)参加者: 70人 | — | 当初計画どおり事業を実施 し、申請件数や参加者人数も 増加傾向であり、課題は特 になし。 | 当初計画どおり、引き続き補 助金事業や懇談会、子どもセ ミナー事業を実施する。 | 生涯学習スポーツ 振興課生涯学習係 | 柳下 | 2743 |
| 1-(2)-③ | 43 | — | ○ | 青年期の学びの場 の創出 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 青年期を対象に、地域活動の機会を提供し 、地域での居場所を創出する。区内の大学 等と連携し、大学生等が、生涯学習施設 で実施する活動成果の発表会に実行委員 として参加するなど、地域の様々 な人と交流し、仲間とともに 自ら学ぶ活動を支援する。 | ・青年期のニーズを知るた め、調査を実施し、指定管理 者と検討した。 ・指定管理者の自主事業で 実施することを確認した。 | ・大学等に生涯学習センター で実施する活動成果の発表 の場への参加を打診したが、 学校の行事等と重なって参 加が難しいと実現しなかつ た。 ・指定管理者とは、関わり 方を検討し、次年度再度打 診することを確認した。 | 令和5年10月20日(金)開 催のフェスティバルーンに 明治学院大学学生が参加し た。(参加者:ホップで石 鯉づくり30人、クイズ66 人) | — | 令和3年度・令和4年度に 指定管理者及び大学等と調 整を行った結果、令和5年 度に実施することができた。 フェスティバルーン以外の 地域での居場所も必要であ る。 | 生涯学習センターで実施 する活動成果の発表の場 への参加以外に、講座や 講演会等の実施を検討し 実施する。 | 生涯学習スポーツ 振興課・生涯学習 係 | 鈴木 | 4709 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|-------------------|-------------------------------|--|--|--|---|---|--|---------------------------|-------|------|----|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 1-(2)-④ | 44 | — | — | 放課GO→・放課GO→クラブの実施 | 各総合支所管理課/子ども若者支援課/生涯学習スポーツ振興課 | <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、放課GO→を中止し、代替事業として、緊急児童居場所づくり事業を実施した。</p> <p>・緊急児童居場所づくり事業では、保護者が就労のため自宅で過ごすことが困難で、児童クラブの利用承認を受けていない児童を対象に、適切な学習、スポーツ、遊びを行える安全・安心な居場所を提供した。</p> <p>・放課GO→児童クラブでは、4月1日時点で854人の児童が登録し、適切な遊び及び安全・安心に過ごすことのできる生活の場を提供した。</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、令和4年4月から放課GO→を再開し、専門の指導員が見守る中で、遊び、スポーツや工作等の活動をしながら放課後の時間を過ごす場を提供した。</p> <p>・令和4年11月1日から、放課GO→児童クラブあかさかの定員を30人から54人に拡大した。</p> | <p>全区立小学校19校で放課GO→を実施し、うち17校では児童クラブ機能を有する放課GO→クラブを実施することで、専門の指導員が見守る中で、遊び、スポーツや工作等の活動をしながら放課後の時間を過ごす場を提供した。令和6年度の放課GO→みたへの児童クラブ機能の付置に向けた準備を実施した。</p> | <p>児童クラブ待機児童の解消に向け、放課GO→みたへの児童クラブ機能の付置を前倒して実施するため。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症による影響はあったが、工夫しながら居場所を提供することができた。</p> <p>児童数の増加や放課GO→・放課GO→クラブ需要の増加により、活動室の安定的な確保や拡大、活動の質の向上が課題である。</p> | <p>各総合支所管理課や教育委員会と連携し、活動室の安定的な確保や拡大を行うとともに、活動の質の向上に向けた専門の指導員の研修の充実化等を図る。</p> | 子ども若者支援課 子ども若者支援係 | 小坂 | 4745 | |
| 1-(2)-⑤ | 44 | — | — | 青少年対策地区委員会の活動支援 | 各総合支所協働推進課/子ども若者支援課 | <p>青少年の健全育成を図るため、地域における青少年対策の推進母体である青少年対策地区委員会(10地区)が実施する、みなとキャンプ村や親子レクリエーション等の活動を支援する。</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、みなとキャンプ村は中止したが、地区委員会の委員を対象に安全管理やプログラムの立案、レクリエーション実技の研修を実施し、知識と技術の習得と各地区間の交流を図った。</p> <p>・青少年対策地区委員会は、それぞれ感染症対策を講じながら、スキー教室や芋ほり等の事業を実施し、区はその経費の一部を助成することで、青少年対策地区委員会の活動を支援した。</p> | <p>・地区委員会全10地区が参加してみなとキャンプ村を実施した。</p> <p>・青少年対策地区委員会は、それぞれスキー教室や芋ほり等の事業を実施し、区はその経費の一部を助成することで、青少年対策地区委員会の活動を支援した。</p> | — | <p>みなとキャンプ村は新型コロナウイルス感染症による影響で令和4年度まで中止としていたが、令和5年度から再開することができた。</p> | <p>・みなとキャンプ村は、事業内容を検討し、引き続き実施する。</p> <p>・各青少年対策地区委員会の活動は、経費の一部を助成することにより引き続き支援する。</p> | 子ども若者支援課 子ども若者支援係 | 江羅 | 4744 | |
| 1-(2)-⑥ | 44 | — | — | 母子保健健康教育の実施 | 健康推進課 | <p>・妊産婦やそのパートナー、乳幼児を持つ保護者等をそれぞれを対象とした講座や講演会を行い、妊娠、出産及び育児についての正しい知識の普及と情報の提供を実施するとともに、地域での友だちづくりを支援する。</p> | <p>・母親学級 来所者491人(基本コース+オプションコース)</p> <p>・両親学級 682組 1346人</p> <p>・ふたごの会講演会 10人</p> <p>・なかよし会勉強会 16人</p> <p>・4か月育児相談 離乳食についての集団指導 551人(12回開催)</p> <p>・ぶちとまとの会14人(4回開催)</p> | <p>・母親学級 来所者884人(基本コース+オプションコース)</p> <p>・両親学級 768組 1515人</p> <p>・ふたごの会講演会 8人</p> <p>・なかよし会勉強会 11人</p> <p>・4か月育児相談 離乳食についての集団指導 537人(24回開催)</p> <p>・ぶちとまとの会30人(4回開催)</p> | — | <p>新型コロナウイルス感染症の影響で事業を縮小して実施をするなどしていたが、コロナ禍が明けて利用者が増えてきており開催方法の見直しも検討が必要。</p> | <p>母親学級については、教室形式で実施していたが、グループワークを取り入れたものに見直し知識の普及軽鉄のほか、友達づくりの取り組みを強化していく。</p> | 健康推進課 保健指導調整担当 | 新井 | 3874 | |
| 1-(2)-⑦ | 44 | — | — | 子育て講座の開催 | 子ども家庭支援センター | <p>子ども中高生プラザ(3施設)及び子ども家庭支援センターにて、子育て中の保護者を対象に子育て講座を実施した。</p> | <p>子ども子育て応援プラザ Pokke及び子ども家庭支援センターにて、子育て中の保護者や子育て支援者に子育て講座を実施した。</p> | <p>子ども家庭支援センターや Pokkeにて、子育て中の保護者や子育て支援者に子育て講座を実施した。</p> | — | <p>子育ての悩みや不安を保護者同士が共有し、保護者間の繋がりを作る事ができた。</p> | <p>引き続き、子育て支援施設と連携を図り、加えて研修等も実施することで、港区で育児される方やその支援者の子育て力の向上を図る。</p> | 子ども家庭支援センター 子ども家庭サービス係 | 大出 | 3951 | |
| 1-(2)-⑧ | 45 | — | — | 平和青年団の派遣 | 人権・男女平等参画担当 | <p>次世代を担う高校生世代を対象に、長崎への派遣研修を中心とした平和に関する研修等をおとして、平和を築く意識を醸成する。戦争体験者との交流や都内平和関連施設の見学などの活動と、長崎への派遣研修を行う。また、派遣終了後は、学習した成果を活動報告書にまとめるほか、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の大切さを広く地域に発信するため、活動報告会を開催する。</p> | <p>・事前研修5回実施(6月～8月)</p> <p>第1回:「港区語り部の会」との交流会</p> <p>第2回:「第五福竜丸展示館」見学</p> <p>第3回:「昭和館・しょうけい館」見学</p> <p>第4回:長崎派遣研修・活動報告会・活動報告書の企画①</p> <p>第5回:長崎派遣研修・活動報告会・活動報告書の企画②</p> <p>・長崎派遣研修(8月8日～10日)</p> <p>・活動報告会実施(8月27日)</p> <p>・みなと区民まつりへの参加(10月9日)</p> <p>・活動報告書作成(12月)</p> <p>平和教育ウェビナー「青少年による平和活動報告会」への参加(2月4日)</p> | <p>・事前研修5回実施(6月～8月)</p> <p>第1回:「令和4年度港区平和青年団修了生」、「港区語り部の会」との交流会</p> <p>第2回:「第五福竜丸展示館」見学</p> <p>第3回:「昭和館・しょうけい館」見学</p> <p>第4回:「手話勉強会」、「ウクライナからの避難者との交流」</p> <p>第5回:長崎派遣研修・活動報告会・活動報告書の企画</p> <p>・港・千代田・品川3区合同平和交流会(8月9日)</p> <p>・活動報告会実施(8月26日)</p> <p>・みなと区民まつりへの参加(10月8日)</p> <p>活動報告書作成(12月)</p> | <p>令和5年度は、8月に予定していた長崎派遣は、台風の影響により中止となってしまったが、代替事業として、港・千代田・品川の3区で合同平和交流会を行った。</p> | <p>・台風の影響により、事業が中止になってしまった際には、代替事業として他自治体と連携し合同平和交流会を行い、短い期間で準備・実施できたことから、評価を得た。</p> <p>・平和青年団修了生と現役青年団とが交流する場を設けることができ、青年団同士の縦の関係性を育むことができた。</p> | <p>令和6年度は、昨年度に引き続き、平和青年団修了生の参画を得ながら、新旧の青年団の交流機会を設けるとともに、若い世代に向けた平和啓発について、平和青年団の取組等を通して、積極的に取り組んでいく。</p> <p>また、平和青年団の活動を通して学んだことを、次の世代に繋げていく。</p> | 総務課 人権・男女平等参画係 | 黒田 | 201 | |
| 1-(2)-⑨ | 45 | — | — | いじめ防止に関する講演会の開催 | 教育指導担当 | <p>6月21日(月)オンラインにて開催した。講師に栄光学園の井本陽久氏を招聘し、「ダメでいい、ダメがいい。～ありのままを認めれば、子どもたちは自ら最高に輝く～」をテーマとして講演会を行った。児童・生徒の状況に応じた適切な支援の充実につながる、充実した内容となった。996名が参加。</p> | <p>6月20日(月)白金の丘学園ホールにて開催した。講師に一般社団法人高橋聡美研究室の高橋聡美氏を招聘し、「子どものSOSの受け止め方～生きづらさを抱える子どもたちに私たちができること～」をテーマとし講演会を行った。児童・生徒の状況に応じた適切な支援の充実につながる内容となった。63名が参加。</p> | <p>6月19日(月)白金の丘学園ホールにて開催した。講師に麗澤大学教授 大久保俊輝氏を招聘し、「子どもの状況に応じた不登校支援の在り方～笑顔が一番!笑顔には誘ってません!～」をテーマとし講演会を行った。児童・生徒の状況に応じた適切な支援の充実につながる内容となった。78名が参加。</p> | — | <p>・学校と家庭や地域、関係機関との連携の充実に向け、「いじめ防止に関する講演会」を開催した。</p> <p>・子どもに関わる行政機関や保護者、地域に対して開催し、児童・生徒理解の必要性について啓発することができた。</p> | <p>引き続き、学校と家庭や地域、関係機関との連携の充実に向け、「いじめ防止に関する講演会」を参集の形式で開催する。</p> | 教育指導担当指導主事 | 山本 | 3896 | |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------|---------------------|--|---|--|--|--|---|---|------------------|---------|--------------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 1-(2)-⑩ | 45 | — | — | 小中学生海外派遣 の充実 | 教育指導 担当 | 夏休みの期間に、小学校6年生及び中学校2年生をオーストラリアへ派遣し、ホームステイや現地校への体験入学等を通じた学習を実施することで、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、文化や豊かな自然に触れ、異文化理解を深める。 | ・「MINATOイングリッシュプログラム」として、留学生リーダーと英語での交流を通して、児童・生徒に国際理解及び国際感覚の基礎を培うとともに、コミュニケーション能力を身に付けることができた。 ・小学生 実施期間:3月26日、27日 人数:39人 ・中学生 実施期間:3月28日、29日 人数:37人 ・研修報告リーフレットを作成 | ・沖縄県那覇市及び北谷市にて3泊4日の国内イングリッシュ・キャンプを実施し、児童・生徒に国際理解及び国際感覚の基礎を培うとともに、コミュニケーション能力を身に付けることができた。 ・小学生 実施期間:7月25日～28日 人数:38人 ・中学生 実施期間:7月25日～28日 人数:39人 研修報告書を作成した。 | ・オーストラリアパース市において、ホームステイや現地校への体験入学等を通じた学習を実施した。児童・生徒に国際理解及び国際感覚の基礎を培うとともに、コミュニケーション能力を身に付けることができた。 ・小学生 実施期間:7月24日～8月1日 人数:40人 ・中学生 実施期間:8月9日～18日 人数:39人 研修報告書を作成した。 | — | 児童・生徒に国際理解及び国際感覚の基礎を培うとともに、コミュニケーション能力を培うことができた。 | 引き続き、小学校6年生及び中学校2年生をオーストラリアへ派遣し、ホームステイや現地校への体験入学等を通じた学習を実施する。 | 教育指導担当指導 主事 | 三戸 | 3896 |
| 1-(2)-⑪ | 45 | — | — | 消費者問題推進員 の育成・支援 | 産業振興 課 | 区内に居住する20歳以上で、区が開講する一定の講座を修了した人が消費者問題推進員に登録して、区が開講する出前講座の講師や、区及び関係団体が開催する各種種別で、普及・啓発などの活動を行う。区民の消費生活の安定及び消費者知識の向上を図るため、消費者問題を啓発していく。 | 消費者問題推進員 運営会議:12回 学習会:6回 参加者数:延149人 | 消費者問題推進員 運営会議:12回 学習会:6回 参加者数:延126人 | 消費者問題推進員 運営会議:12回 学習会:6回 参加者数:延157人 | 登録済推進員の都合により、参加者数がばらつくため。 | ・消費者被害に関わる啓発だけでなく、プラスチックごみ問題等SDGsに関する幅広いテーマについて活動を実施。また、子ども・若者と高齢者という弱者に重点を置きつつ、幅広い世代に向けた取り組みを実施。 ・課題は登録推進員の高齢化(新規登録者の増加の必要性) | 消費者力検定講座、消費者教養講座との連携を強化し、活動に取り組むとともに、これら講座受講者の新規登録へと結び付けたい。 | 消費者センター | 北・宮川 | 03-3456-4159 |
| 1-(2)-⑫ | 45 | — | — | 消費者教育の充実 | 産業振興 課 | 区内の消費者(子どもを含む)を対象に、生活に必要な知識・情報又は技術を提供するため、一日消費者教室や子ども消費者教室、移動消費者教室などを開催する。 | ・一日消費者教室:5回 参加者数:89人 ・子ども消費者教室:3回 参加者数:40人 ・消費者力検定講座:全8回+検定試験 参加者数:延68人、試験5人 ・消費者教養講座:全9回 参加者数:延199人 (基礎講座:50人、応用講座:会場71人、動画78人) | ・一日消費者教室:5回 参加者数:会場97人、動画95人 ・子ども消費者教室:2回 参加者数:26人 ・消費者力検定講座:全8回+検定試験 参加者数:延149人 ・消費者教養講座:全9回 参加者数:延243人 (基礎講座:59人、応用講座:会場82人、動画102人) | ・一日消費者教室:4回 参加者数:会場64人、動画33人 ・子ども消費者教室:3回 参加者数:82人 ・消費者力検定講座:全8回+検定試験 参加者数:延45人 ・消費者教養講座:全9回 参加者数:延157人 (基礎講座:33人、応用講座:会場40人、動画84人) | ・子ども消費者教室は夏休み開催で、近隣小学校の協力を得て開催し、集客もよく、一日消費者教室も堅調。 ・消費者力検定講座の申込落ち込みが激しく、教養講座への連携も影響。原因は広報みなど配布数の削減と推察。 | ・子ども消費者教室、一日消費者教室については、時節に即したテーマで開催できており結果に表れている。 ・消費者力検定講座の内容と広報を柔軟的に見直し、集客向上が必要。 | 引き続き今年度も早めの準備で夏休み子ども消費者教室の開催と時流に即した一日消費者教室の開催。 ・消費者力検定講座と消費者教養講座の連携を強化するべく検定講座の内容/広報手法見直し。 | 消費者センター | 北・阿部・宮川 | 03-3456-4159 |
| 1-(2)-⑬ | 45 | — | — | 港区が有する強みを 生かせる人材の 育成 | 産業振興 課 | 公的研究機関等と連携しながら、新規採用社員を対象とした「基礎育成コース」を始め、新技術の習得をめざす「新製品・新技術習得コース」、海外も視野に入れた更なる販路拡大をめざす「グローバルビジネスコース」といった多彩な研修プログラムを区内中小企業に提供し、高度な専門性と実行力を有する企業人材の育成を支援する。 | 基本計画に計上した3コース 研修を実施した。 ・新入社員研修:参加者数56人 ・OA研修:参加者数37人 ・新技術研修:参加者数5人 ・グローバル研修:参加者数30人 | 基本計画に計上した3コース 研修を実施した。 ・新入社員研修:参加者数53人 ・OA研修:参加者数90人 ・新技術研修:参加者数15人 ・グローバル研修:参加者数11人 | 基本計画に計上した3コース の研修のほか、AI人材を育成する講座を実施した。 ・新入社員研修:参加者数58人 ・OA研修:参加者数90人 ・新技術研修:参加者数28人 ・グローバル研修:参加者数16人 ・AI人材育成プログラム:講座修了生数11人 | AIスキルの向上により、高度な専門性と実行力を有する企業人材の育成が期待されることから、新たにAI人材育成プログラムを実施した。 | 令和4年度から産業振興センター指定管理事業として実施。指定管理者が有するノウハウや知見を生かし、これまでの人材育成プログラムに加え、新規プログラムを開始するなど、事業の充実を図ることができた。 | 引き続き、多彩な研修プログラムを区内中小企業に提供することにより、個人が生涯にわたって活用できるスキルを身に着ける機会を提供していく。 | 産業振興課・経営 支援係 | 加川 | 3934 |
| 1-(2)-⑭ | 46 | — | — | 地域防災を担う人 材の育成 | 防災課 | 防災住民組織の防災力の強化を図るため、地域の防災活動などを支援する人材として、「防災士」を活用する。さらに、防災住民組織で活動する人材の知識や技能の向上、地域での活動へ参画するきっかけづくりを支援する。 | 防災士有資格者向け研修会3回実施 | 防災士有資格者向け研修1回実施 | 防災士有資格者向け研修2回実施 | — | オンライン形式と対面を併用して行ったが、参加者の利便性を考えつつ今後は対面の参加者を増やしたい。 | 更なるスキルアップ、積極的な防災活動へとつながる研修会の実施を継続する。 | 防災課・地域防災 支援係 | 武藤 | 2511 |
| 1-(2)-⑮ | 46 | — | — | 防災学習機会の提 供 | 危機管理・ 生活安全 担当 | 子どもや女性、高齢者など多様な区民等を対象に、実践的に犯罪から身を守る知識を学べる機会を提供する。 | ・女性のための防犯講座1回実施 ・区民防犯研修会 3回実施 | ・区民防犯研修会 5回実施 ・子どもの防犯教室 1回実施 | ・区民防犯研修会 3回実施 ・子どもの防犯教室 2回実施 | — | ・特殊詐欺被害が未だ多く発生していることから、警察官からの講話だけでなく、新たな取組として詐欺の手口を落語で伝え、楽しく分かりやすい内容とした。 ・子ども向けの防犯講座では、いざというときの対応の仕方を体験的に学び、犯罪被害の未然防止につながる研修会を実施できた。 ・研修会実施にあたり、より多くの方に周知できるよう工夫する。 | 今後も子ども、女性、高齢者等多様な区民等を対象に、実践的に犯罪から身を守る知識を学べる機会を提供する。 | 防災課・生活安全 推進担当 | 細野 | 2270 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|--------------------------------|--------------------|--|--|--|---|-----------------|---|--|-----------------------|----------------|--------------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 1-(2)-⑯ | 46 | — | — | 小・中学生の環境 に関する自主研究 の実施 | 地球温暖 化対策担 当 | 小・中学生が環境について自主的に研究し、 環境に配慮した行動の大切さを学ぶ。区内在 住・在学の小学校4年生から中学校3年生ま での児童・生徒が対象。エネルギー・水・大気・ 緑・生きもの・リサイクル・ごみなどの環境問 題や環境保全に関するものの中から自由に テーマを設定する。区が設置する審査会で優 秀作品を選考し、表彰する。入賞作品は区立工 コプラザ等で展示する。 | 応募作品数:653点 (内訳) 小学生の部:216点 中学生の部:437点 | 応募作品数:646点 (内訳) 小学生の部:217点 中学生の部:429点 | 応募作品数:592点 (内訳) 小学生の部:296点 中学生の部:296 | — | ・応募作品数が減少している。 ・応募作品数の更なる増加の ため、より積極的な周知を図 る必要がある。 | 区HPなどを用いた周知や 区内の小・中学校への呼びか けを継続して実施する。 | 環境課地球環境係 | 中塚 | 4811 |
| 1-(2)-⑰ | 46 | — | — | あきる野環境学習 の実施 | 地球温暖 化対策担 当 | 区があきる野市から借り受け、整備している みなと区民の森とその周辺の里山や溪流など を活用して、間伐・植樹体験や自然観察体験 などの環境学習を実施する。区民、とりわけ将 来を担う子どもたちが、都心にはない自然の 中で、森や里山などの成り立ちや、生態系と 人間の関わりなどについて体験をとおして学 ぶ機会を提供し、環境保全について考える機 会とするとともに、毎日の生活において環境 に配慮した行動に取り組むよう促す。 | 環境学習実施回数:46回 | 環境学習実施回数:57回 | 環境学習実施回数:55回 | — | 新規参加者の更なる増加の ため、区民の森の存在を知っ てもらう周知を図る必要があ る。 | より多くの区民が参加し楽し めるよう、SNS等での周知活 動を増加させる。 | 環境課地球環境係 | 中塚 | 4811 |
| 1-(2)-⑱ | 46 | — | — | エコプラザにおける 環境学習などの 推進 | 地球温暖 化対策担 当 | 区民の環境の保全に関する理解を深めること により、環境への負荷の少ない生活文化の形 成に寄与する。脱炭素社会・自然共生型社会・ 循環型社会のテーマを柱とし、環境関連法令 等の趣旨を踏まえた事業を実施する。また、 環境学習関連図書の閲覧、区ホームページ及 びSNS等の活用により、環境に関する情報を 発信する。 | ・来館者数:70,504名 (オンライン講座参加者 646 名含む) ・講座実施回数 140回(展示 13件含む) | ・来館者数:73,281名 (オンライン講座参加者 502 名含む) ・講座実施回数 156回(展示 14件含む) | ・来館者数:63,450名 (オンライン講座参加者 454 名含む) ・講座実施回数 165回(展示 13件含む) | — | 来館者及び講座参加者の更 なる増加のため、魅力的 な講座企画を行うととも に、エコプラザの認知度向上 を図る必要がある。 | オンラインも活用して質の高 い講座や展示となるよう工夫 するとともに、SNS等で積極 的な情報発信を行う。 | 環境課地球環境係 | 中塚 | 4811 |
| 1-(2)-⑲ | 47 | — | — | 緑と生きもの観察 会・調査会の開催 | 環境課 | 区立公園等で、区民が身近な生きものとの 生息・生育場所について興味と関心を持つ きっかけをつくるため、夏の昆虫や冬鳥など 季節に応じたテーマで観察会や調査会を開催 する。 | ・生物多様性みなとフォーラム 現地見学会:参加者10名 ・春の生きもの観察会:参加者 10名 | ・生物多様性みなとフォーラム 現地見学会:参加者18名 ・秋の生きもの観察会:参加者 18名 ・有栖川宮記念公園生物調査 見学会40名 | ・生物多様性みなとフォーラム 現地見学会:参加者16名 ・秋の生きもの観察会:参加者 22名 | — | 生物多様性みなとネットワ ーク会員の協力を得て現地見学 会を開催した。また、自然教育 園の協力を得て生きもの観察 会と同時に講演会を開催し好 評を得た。 | 今後も、区民が身近な生き ものふれあう環境学習を推 進し、観察会・勉強会の充実を 図る。 | 環境課緑化推進担 当 | 魚屋 津嶋 上野 | 2330 2331 |
| 1-(2)-⑳ | 47 | — | — | (仮称)文化芸術 ホール整備に向け た機運醸成 | 国際化・文 化芸術担 当 | 区で初めての文化芸術の専門施設の整備に 向けて、区全体で気運を高め、全ての区民に 愛される施設となるよう、高齢者・障害者・外 国人・親子向け等の公演・ワークショップなど の気運醸成事業を実施する。 | 実績なし | 令和5年1月9日(月・祝)に、 文化芸術ホールの基本理念や 重点的な取組の趣旨を踏まえ た、シンポジウムとワーク ショップを開催した。 | みなと芸術センターの基本 理念及び重点的な取組の趣旨 を踏まえ、区民等を対象とし たワークショップ(4回)とシン ポジウム(1回)を開催した。 | — | 令和4、5年度に実施したシン ポジウム及びワークショップ は、文化芸術に関心が高い人 向けの内容となったため、多 くの人が関心を持てるような 内容のものを検討する必要が ある。 | 令和6年度に開催予定の ワークショップ及びシンポジ ウムは、一般区民にもわかりや すいテーマや内容とする。 | 地域振興課 文化芸術振興係 | 遠藤 | 2523 |
| 1-(2)-㉑ | 47 | — | — | 介護予防事業の実 施 | 高齢者支 援課 | 高齢者がいつまでもいきいきと生活し、要介 護状態にならないように予防するため、高 齢者向けの運動機能向上・栄養改善・口腔機 能の向上等を目的としたトレーニングや講座 等を介護予防総合センター(ラクっちゃん)やい きいきプラザ等で行う。 | ・介護予防総合センターやい きいきプラザ等で、介護予防 事業を実施 ・「健康トレーニング」では、実 施施設の視察を行い、カリ キュラムの見直しを行った。 ・新しい講座を2つ開発した | ・「膝痛・腰痛予防改善教室」実 施施設の視察を行い、カリ キュラムの見直しを行った。 ・前年度の教室参加者の体力 測定結果等を分析し、各い きいきプラザ等施設と区民に向 け、効果の周知を行った。 ・介護予防事業の精査を行っ た。 | ・教室のカリキュラムの見直し や指導のポイントをいきいき プラザ等介護予防事業実施施 設の5地区代表者と共有する ことで、教室のクオリティを 向上させた。 ・高齢者相談センターや町会・ 自治会等と連携を強化するこ とで、教室の周知に注力した。 | — | カリキュラムの見直しや指導 者の不安定の改善等を通し て、教室のクオリティを向上さ せた。また、教室自体の改廃を 行ったことで、全体の整理を 行った。外部機関等との継続 的な連携をすることで、新規 参加者の増加をめざしたい。 | 介護予防事業に対する無関 心層にもアプローチできるよ うな工夫や新たな介護予防事 業の在り方を検討しつつ、引 き続き区民ニーズを汲み取っ た教室展開をする。また、その 周知活動に注力する。 | 高齢者支援課・介 護予防推進係 | 松田 | 2992 |
| 1-(2)-㉒ | 47 | — | — | 地域型認知症予防 事業の実施 | 高齢者支 援課 | 地域の中で高齢者の個人の尊厳が尊重され、 いきいきとした在宅生活を送ることができる よう、認知症を予防し、発症を遅らせる。認知 症予防に関する脳健康度テストや自主活動 グループ参加者向けの講話とアドバイスなど、 認知症予防の普及・啓発に取り組む。 | ・認知症予防のためのプログ ラム(有酸素運動と芸術鑑 賞)、脳健康度テスト、自主 グループ交流会を実施した。 ・延べ参加者数117人 | ・脳健康度テストと認知症予 防のためのプログラム(ウォ キング等の有酸素運動や創作 活動)を一つのコースとして実 施した。 ・延べ参加者数368人 | ・脳健康度テストおよび説 明会を全2回、認知症予防の プログラム(有酸素運動やド ユアルタスクの予防運動)を計2 コース実施した。 ・延べ参加者数376人 | — | ・計画に記載されている自主 活動グループ参加者向けの講 話には感染症の拡大を受け、中 止となり、令和3年度以降実 績はなし。 ・認知症についての講話は好 評であった。 | 事業見直しを行い、自主活動 グループの支援が今後は難し いと判断。また認知機能測定 事業がR6から始まることもあ り、今後は認知症予防のprog ラムについて内容の充実を 図っていく。 | 高齢者支援課・高 齢者相談支援係 | 浦田 | 2411 |
| 1-(2)-㉓ | 47 | — | — | 歩いて学んで楽し むミュージアム巡り 事業の実施 | 高齢者支 援課 | 高齢者に区内の美術館・博物館に親しんで もらいながら、参加者同士の交流を深め、い きいきと健康的に芸術・文化に触れるきかけ づくりを図る。見学先の美術館・博物館では、 参加者が文化芸術について理解を深められ るよう、学芸員によるギャラリートーク(展示 作品の説明等)や体験・ミニ講座などを実施し、 個人鑑賞とは異なるミュージアム鑑賞の機会 を提供できるように工夫する。 | ・新型コロナウイルス感染症の 影響下であっても、全4回開 催することが出来た。 ・各回定員:20名で、コロナ禍 下だったが、定員の3倍を上回 る応募もあった。 ・当日の参加者数は、大雨など の天候により、不参加があっ たため、延べ58名の参加が あった。 | ・引き続き新型コロナウイルス 感染症の影響下にあったが、 全4回開催することができた。 ・各回定員:20名だが、定員 を上回る応募もあった。 ・当日の参加者数は、不参加が あったため、延べ67名で昨年 を上回る参加があった。 | ・区内の博物館等のミュージ アム巡りを全4回開催した。毎 回定員を上回る応募があり、 参加者は延べ66名であった。学 芸員の説明を交えた内容とし ているため、好評であった。 | — | コロナ禍であっても申込は 毎回、定員を超えており、終了 後のアンケート結果も良好で あった。区内の施設が多数あ ることから、テーマを絞ると ともに、施設側との協議を積極 的に進め、学芸員などの講話 を欠かすことのないよう進め ていく。 | 積極的な周知のもと、外出 機会の創出などの効果を意識 するとともに、芸術・文化に触 れる機会として、開催する。大 学や美術などのテーマを明確 にして、参加しやすく工夫して 開催していく。 | 高齢者支援課・高 齢者福祉係 | 松永 | 2396 |
| 1-(2)-㉔ | 47 | — | — | こころの病気等の 普及・啓発 | 健康推進 課 | こころの病気の早期発見、早期治療、社会適 応の援助のほか、区民のこころの健康の保持・ 増進を図るため、こころの病気等についての 普及・啓発活動として、講演会を開催する。ま た、こころの病気のある人の家族へ正しい知 識の提供と、家族同士の交流の場として家族 会を開催する。 | ・精神保健福祉講演会2回58 名 ・アルコール家族講座2回48 回 ・家族会開催11回延95人 ・医師による相談等36回延 91人 ・デイケア事業47回延308人 | ・精神保健福祉講演会2回30 名 ・アルコール家族講座2回20 名 ・家族会開催11回延115人 ・医師による相談等41回延 104名 ・デイケア事業48回延190人 | ・精神保健福祉講演会2回29 名 ・アルコール家族講座2回50 名 ・家族会開催11回延135人 ・医師による相談等48回延 104名 ・デイケア事業47回延149人 | — | コロナ禍で、事業の中止を余 儀なくされることもあったが、 募集人数を超える参加申し込み のあった講座等もあり、こ ころの病気等への支援ニーズは 常に必要とされており、可能 な限り事業を実施した。 | 引き続き、普及啓発につ とめ、当事者や家族への支援を 行っていく。 | 健康推進課 保健指導調整担 当 | 鈴木 | 3874 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------|------------------------------|--|---|--|--|-----------------|---|---|--------------------------|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 1-(2)-㉔ | 48 | — | — | 自殺予防のための 情報提供と普及・ 啓発 | 健康推進 課 | 「港区自殺対策推進計画(改定版)」に基づき、「みんなで支え合って、生きる道を選ぶ港区」をめざし、ところのちを支えるキャンペーンを区内図書館と連携し情報発信するとともに、講演会を開催する。また、自殺の原因で最も多いうつ病に対して、その家族を対象に「うつ病家族講座」を開催する。 | 9月10月、3月に港区こころのちを支えるキャンペーンを図書館等と連携して開催した。うつ病家族講座は2回開催し、43名の参加あり。また広報みなどやホームページ、Twitterで随時情報発信を行った。 | ・9月10月、3月に港区こころのちを支えるキャンペーンを図書館等と連携して開催、また、ちいばす車内や新橋駅ファロシテビジョン、デジタルサイネージを通じ、啓発映像を放映した。 ・区役所やみなとパーク芝浦、各地区総合支所でも展示を実施した。 ・うつ病家族講座は2回開催し、42名の参加があった。 ・広報みなどやホームページ、Twitterで随時情報発信を行った。 | ・9月、10月、3月に港区こころのちを支えるキャンペーンを図書館等と連携して開催、また、ちいばす車内や新橋駅ファロシテビジョン、デジタルサイネージを通じ、啓発映像を放映した。 ・区役所やみなとパーク芝浦、各地区総合支所でも展示を実施した。 ・うつ病家族講座2回開催し、40名の参加があった。 ・広報みなどやホームページ、X(旧Twitter)で随時情報発信を行った。 | — | こころのちを支えるキャンペーンでは区役所や支所での展示の他、ちいばす車内や新橋駅ファロシテビジョン等で啓発映像し不特定多数への普及啓発を実施した。 | 健康推進課 保健指導調整担当 | 鈴木 | 3874 | |
| 1-(3)-① | 49 | — | — | 生涯学習出前講座 の充実 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 区民等のグループが自主的に企画する環境や健康、介護などの学習会等に、区の職員を講師として派遣し、区政の取組をわかりやすく説明する講座を実施する。区職員の専門知識を生かした講座の充実に努め、区民の生涯学習を支援するとともに、区政参加の契機づくりを図る。 | 区民等が主催する学習会等に区の職員を講師として派遣し、区政の取組等の講座を実施した。区ホームページやSNS等で事業の周知をした。 | ・区民等が主催する学習会等に区の職員を講師として派遣し、区政の取組等の講座を実施した。 ・区ホームページやSNS等で事業を周知をした。 | ・区民等が主催する学習会等に区の職員を講師として派遣し、区政の取組等の講座を実施した。 ・区ホームページやSNS等で事業を周知をした。 | — | 区政の取り組みや専門知識を活かした講座を実施した。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 須藤・若松 | 2744 | |
| 1-(3)-② | 49 | — | — | 芝BeeBee's プ ロジェクトの実施 | 芝地区総 合支所協 働推進課 | 芝地区区内で区民との協働による養蜂事業を実施する。ミツバチの飼育を通じた自然体験学習により芝地区の自然に触れ、考える機会とするとともに、地域の人と人とのつながりや世代間交流を促進する。また、多様な主体を巻き込み、ハチミツ等を活用した芝地区の魅力発信を進める。 | ミツバチの様子を確認する内検と、ハチミツを採取する採蜜を実施し、地域の交流促進につながった。ハチミツの販売とハチミツ活用事業者の募集を行い、芝地区のPRを行った。 | 引き続きミツバチの様子を確認する内検と、ハチミツを採取する採蜜を実施した。今年度は、飯倉学童クラブの児童が10名参加した。採取したハチミツの活用方法として、学生や事業者がハチミツを使った商品の開発・販売を行い、芝地区のPRを行った。 | 引き続きミツバチの様子を確認する内検と、ハチミツを採取する採蜜を実施した。今年度は、飯倉学童クラブの児童が10名参加した。採取したハチミツの活用方法として、学生や事業者がハチミツを使った商品の開発・販売を行い、芝地区のPRを行った。 | — | 令和5年度は、飯倉学童クラブの児童が参加し、学童への学びの機会を提供できた。引き続き港区内の児童に向けて周知を増やす必要がある。また、事業者募集もさらに活用し、多くの区民へはちみつが届くようにする。 | 芝地区総合支所 協働推進課 | 松井 | 3128 | |
| 1-(3)-③ | 49 | — | — | 親子でエコっとプ ロジェクトの実施 | 麻布地区総 合支所ま ちづくり課 | 自然環境やリサイクルに関する取組を行う地域のボランティア団体や事業所等と連携して、子どもたちを対象に「見る」「知る」「体験する」ことを通じて、自然環境や生き物を大切にすることを育み、子どもたちが自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施する。 | ・ワークショップ実施:3回 ・参加者数:91名 | ・ワークショップ実施:6回 ・参加者数217名 | ・ワークショップ実施:6回 ・参加者数179名 | — | 当初計画通り、様々な事業を実施することができた。 | 当初計画通り、ワークショッ プを実施予定。 | (麻布)まちづくり 課まちづくり係 | 松井 | 3824 |
| 1-(3)-④ | 49 | — | — | ベイエリアみどり でつなぐプロジェクト | 芝浦港南 地区総合 支所ま ちづくり課 | 他地区と比較し、緑被率が低い現状を踏まえ、区民や事業者と協力し、みどりの保全と創出に向けた普及・啓発を推進する。また、植物にふれあう自然学習の場を増やし、世代間交流を促進するとともに、みどりに親しむ機会の充実に努める。 | ・第5回グリーンツアー、6/6に6名参加 ・第6回グリーンツアー、10/10に15名参加 ・樹木学習会、9/8、12/15 ・田植え体験、中止 ・稲刈り体験、10/17に11組34名参加 | ・樹木学習会 5月11日 6名参加 ・第7回グリーンツアー 6月5日 14名参加 ・田植え体験 5月29日 17組61名参加 ・稲刈り体験 10月22日 21組81名参加 | ・第8回グリーンツアー 6月4日 9名参加 ・第9回グリーンツアー 11月12日 12名参加 ・田植え体験 5月27日 21組69名参加 ・稲刈り体験 11月28日 23組73名参加 | — | ・田んぼ事業に関して、募集方法を抽選とし、より多くの区民の参加が出来るように工夫した。 ・グリーンマップを完成させることが出来たので、マップを活用したツアーの推進。 | ・グリーンマップを活用した、グリーンツアーの開催 ・田植え体験 ・稲刈り体験 | まりづくり課 まちづくり係 | 仲摩 | 3853 |
| 1-(3)-⑤ | 49 | — | — | エコライフ・フェア MINATOの実施 | 地球温暖 化対策担 当 | 環境保全への意識を高め、環境に配慮したライフスタイルの実践を広く普及させることを目的に実施する。出展団体を事業者、住民団体などから広く募り、区と出展団体で構成する実行委員会で開催する。環境に関連した参加型ワークショップやクイズラリー、ステージイベントなど、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の区民等が楽しみながら学ぶことができる参加型イベントとして実施する。 | Onlineエコライフ・フェアMINATOを令和3年12月から2か月間実施 | 来場者数:約1,680人 | 来場者数:3,444人 | — | R4は雨天のため開催時間を短縮して実施した。R5も雨天だったが多くの来場者があった。エコクイズラリー、緑のカーテン用苗木配布、リサイクルバザー等が好評で、環境保全に対する意識向上につながる機会を提供できた。 | 子どもむけのコーナーを充実させるなど、より多くの区民が参加し楽しめるよう、内容の検討を行う。 | 環境課地球環境係 | 五十嵐 | 4812 |
| 2-(1)-② | 51 | — | — | 生涯学習施設の環 境の整備 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 生涯学習施設の認知度を高めるため、区有施設等のデジタルサイネージなどを活用し、生涯学習施設の情報発信を行うとともに、積極的に生涯学習情報を収集・提供し、利用者の学習方法等についての相談体制の充実に努める。また、年齢や国籍、障害の有無等にかかわらず、利用者の誰もがより快適に利用できるような環境の整備を図る。 | ・区ホームページやSNS等で生涯学習施設の情報を発信した。 ・生涯学習施設において、利用者の相談を受け、よくある相談の事例集を整備した。 ・改修工事においてトイレを洋式化するなど、施設のバリアフリー化を図った。 | ・区ホームページやSNS等で生涯学習施設の情報を発信した。 ・生涯学習施設において、利用者の相談を受け、よくある相談の事例集を整備した。 | ・区、指定管理者のホームページやSNS等で生涯学習施設の情報を発信した。 ・生涯学習施設において、利用者の相談を受け、よくある相談の事例集を整備した。 | — | 積極的な情報発信や相談体制の充実などの整備を行った。 | 引き続き、利用者のだれもがより快適に利用できるような、生涯学習施設の環境の整備を行う。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 若松 | 2744 |
| 2-(1)-③ | 51 | — | — | 生涯学習情報の提 供 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 区や関係団体などが主催する講座やイベント情報、区内を中心に活動している社会教育関係団体等のサークル情報等、生涯学習に関する情報を区ホームページに掲載する。また、生涯学習センター1階に設置している学習情報ルームを充実し、区や関係団体の事業に限らず、企業や大学、NPO等が提供する生涯学習の情報を幅広く収集し、迅速に提供する。 | ・社会教育関係団体等の情報や区や関係団体が主催する生涯学習講座の情報を区ホームページに掲載した。 ・生涯学習センターの学習情報ルームで生涯学習情報の収集・提供を行った。 | ・社会教育関係団体等の情報や区や関係団体が主催する生涯学習講座の情報を区ホームページに掲載した。 ・生涯学習センターの学習情報ルームで生涯学習情報の収集・提供を行った。 | ・社会教育関係団体等の情報や区や関係団体が主催する生涯学習講座の情報を区ホームページに掲載した。 ・生涯学習センターの学習情報ルームで生涯学習情報の収集・提供を行った。 | — | 区ホームページ、生涯学習施設等を通じて、生涯学習情報等を発信した。 ・情報発信するツールを増やし、生涯学習施設を知らない区民等に対し、周知した。 | 引き続き、区のホームページやSNSを通じて生涯学習情報の発信を強化するとともに、生涯学習センターの学習情報ルームの充実を図る。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 若松 | 2744 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------|-------------------------------|--|---|---|--|--|---|--|-----------------------|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 2-(2)-① | 52 | — | ○ | 児童館及び子ども 中高生プラザの充 実 | 各総合支 所管理課/ 子ども若 者支援課 | 児童館及び子ども中高生プラザには、遊戯室や図書室、工作室、集会所等の設備があり、主として18歳未満の児童や親子を対象に自由に来館して遊ぶことができる。地域の子どもの仲間づくりをめざして、専任の指導員により、様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を行う。 | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各施設の施設状況に応じ、事前予約制や定員設定を行うことで、子どもたちが安全・安心に遊べるようにした。また、行事やイベント等についても、各施設の工夫の上、感染症対策を講じながら実施した。 | 新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、各施設が工夫の上、様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を行った。 | 地域の子どもの仲間づくりをめざして、専任の指導員により、様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を実施した。 | — | 新型コロナウイルス感染症による影響はあったが、工夫しながら様々な行事を提供することができた。施設の認知度や高校生世代の利用率の更なる向上が課題である。 | 引き続き様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を実施するとともに、施設の認知度や高校生世代の利用率の更なる向上に向けた検討を行う。 | 子ども若者支援課 子ども若者支援係 | 小坂 | 4745 |
| 2-(2)-② | 52 | — | ○ | 伝統文化交流館に おける講座の充実 | 芝浦港南 地区総合 支所管理 課 | 伝統文化交流館は、区指定有形文化財を活用し、伝統文化の継承や地域交流の場として開館した。地域の歴史に関する常設展示のほか、児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演やワークショップ、講座等を実施する。 | ・展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施 ・児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催 | ・展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施した。 ・児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催した。 | ・展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施した。 ・児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催した。 | — | 当該施設の認知度を高め、より多くの方に来館いただき常設展示をご覧いただくこと、開催する講座にご参加いただけるよう周知方法を検討する必要がある。 | 引き続き、展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施し、児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を開催する。 | 芝浦港南地区総合支所 管理課 管理係 | 遠藤 | 3850 |
| 2-(2)-③ | 52 | — | ○ | 図書館における学 びの場の提供 | 図書文化 財課 | 新しい資料と出会い、学びや知識が広がるきっかけとなる取組を実施する。また、映画会や音楽会、朗読会等のイベントを開催し、多様な学びの場を提供する。 | 新しい資料と出会い、学びや知識が広がるきっかけとなる取組を実施し、映画会や音楽会、朗読会等のイベントを開催して多様な学びの場を提供した。 | ・三田図書館の移転開設により、収容人数の多いイベントの開催が可能となった。 ・各図書館では各々の地域特性に合わせたイベントを開催した。 | ・図書資料、視聴覚資料、オンラインデータベースなど、様々な方法による資料の提供に取り組んだ。 ・映画会や音楽会等幅広い年代が楽しめるイベント及び各図書館の地域特性に合わせたイベントを開催した。 | — | 様々な方法による資料の提供を充実させることで、新しい資料との出会い、学びや知識が広がるきっかけができた。 ・幅広い年齢層が楽しめる様々なジャンルの講座や映画会などのイベントを実施することが出来た。 | 引き続き、様々な方法による資料提供の整備及び幅広い年齢層や地域の特性を生かした各種イベント等を実施し、多様な学びの場を提供する。 | 図書文化財課図書 館係 | 安藤 | 3890 |
| 2-(2)-④ | 52 | — | ○ | 郷土歴史館での講 座の実施 | 図書文化 財課 | 郷土歴史館は、歴史的建造物を活用し、港区の自然・歴史・文化を深く知り、交流する拠点として開館された。常設展示のほか、企画・特別展示、イベントの開催、特別展示に関する講座をはじめとした各種講座の実施をとおして、港区を知り、魅力を感じることができるきっかけをつくる。また、郷土歴史館の建物撮影を受け入れ、施設の周知を一層図り、興味を持った方の来館を促すことで、郷土歴史館での展示観覧により、港区の歴史、文化等に触れる機会をつくる。 | 企画・特別展示、イベントの開催、特別展示に関する講座をはじめとした各種講座を実施、郷土歴史館の建物撮影を受け入れ、学校及び団体見学受け入れ実施。 | ・企画・特別展示、イベントの開催、特別展示に関する講座をはじめとした各種講座を実施した。 ・鉄道開業150年を記念した講演会・シンポジウムを開催した。 ・郷土歴史館の建物撮影受け入れや、学校及び団体見学受け入れを実施した。 | ・企画・特別展示、イベントの開催、特別展示に関する講座をはじめとした各種講座を実施した。 ・郷土歴史館開館5周年を記念した展示や館内ラリー等を開催した。 ・郷土歴史館の建物撮影受け入れや、学校及び団体見学受け入れを実施した。 | — | 幅広い年齢層が親しめる魅力のある展示・イベント・講座を開催し、来館者数を伸ばすことができた。 ・撮影受け入れ、団体見学受け入れを実施した。 | 子供が親しめるような展示にも力を入れ、開催していく。小中高生が港区の歴史に触れる機会を創出するため、学校との連携や施設の受入体制を強化する。 | 図書文化財課文化 財係 | 児玉 | 3895 |
| 2-(2)-⑤ | 53 | — | ○ | みなと科学館にお ける体験する場の 提供 | 教育指導 担当 | 科学に関する情報の発信拠点として、誰もが興味関心を持ちやすい科学体験の入口となるプログラムから、最先端の研究内容を学ぶプログラムまで多様な利用者層に応じた講座を実施する。 | みなと科学館と連携し、全4回の講座を5コース(1回19人)設定し、子どもたちの科学的な思考力の向上につながった。 | みなと科学館と連携し、全4回の講座を5コース(1回19人)設定し、子どもたちの科学的な思考力の向上につながった。また、オンライン講座を4回設け、より多くの児童が最先端の研究内容を学ぶことができる機会を設けた。 | — | 参加申し込みをしたが、欠席する児童がいたため、講座に興味をもって本当に受けたという強い思いのある児童に受講させていく取組を考える必要がある。 | 科学館の講座の申込受付のスタイルを踏襲し、科学教室に興味のある区内の5年生19名を電話申し込みによって募集する。 | 教育指導担当指導 主事 | 山本 | 3896 | |
| 2-(2)-⑥ | 53 | — | — | いきいきプラザ等 による活動の場の 充実 | 各総合支 所管理課/ 高齢者支 援課 | 高齢者のいきいきづくりや介護予防、健康づくりを支援する。区民の相互交流及び自主的活動の促進を図るため、地域の高齢者が健康でいきいきとした生活を続けられるよう、「高齢者のいきいきづくり、学びの場」、「介護予防、健康づくりの場」、「ふれあい、コミュニティ活動の場」として、いきいきプラザの一層の充実を図る。また、増加が見込まれる高齢者への対応や、区民ニーズに即応したサービスを提供するとともに、様々なイベントや講座等により新たな利用を促進し、高齢者による自主的な地域活動の支援と、多様な活動主体との協働による地域の活性化を推進する。 | 地域の方々とふれあい、コミュニティ活動の場として、料理・手芸、語学教室等の各種教室を開催した。 | 地域の方々とふれあい、コミュニティ活動の場として、料理・手芸、語学教室等の各種教室を開催した。 | 卓球教室やダンス教室、ウォーキング教室等を開催した。 港区立いきいきプラザ等地域訪問事業等の実施により、アウトリーチによる周知を充実させ、利用促進を図った。 | — | 多様な教室・講座を実施し、多くの高齢者の参加が得られた。 ・高齢者人口の増加に伴い、教室事業の需要と供給の適正化が必要。 ・新型コロナウイルス感染症により減少した利用者数の回復。 | 各種教室の実施にあたり、利用者等の意見を反映させるなどの工夫を凝らし、利用者の増加を図るとともに、新規利用者が参加しやすい環境づくりを進めていく。 | 高齢者支援課・高 齢者福祉係 | 土橋 | 2395 |
| 2-(2)-⑦ | 53 | — | — | 男女平等参画セン ターの充実 | 人権・男女 平等参画 担当 | 男女平等参画センター(リーブラ)は、男女平等参画社会実現のための拠点施設として、区民及び団体の様々な活動を支援するとともに、多様な区民のあらゆるライフステージに応じた講座・講演会の開催や相談事業、情報提供・発信等を充実する。 | 【リーブラ主催42講座】 ・相談事業(心のサポートルーム)相談件数:2,067件 ・情報発信 男女平等参画情報誌「OASIS」の発行、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ホームページ等 | 【リーブラ主催35講座】 ・相談事業(心のサポートルーム)相談件数:2,498件 ・情報発信 男女平等参画情報誌「OASIS」の発行、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ホームページ等 | 【リーブラ主催38講座】 ・相談事業(心のサポートルーム)相談件数:2,799件 ・情報発信 男女平等参画情報誌「OASIS」の発行、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ホームページ等 | — | コロナ禍での感染対策を生かし、講座の特性に合わせてオンラインやハイブリットによる講座開催を積極的に行うなど、リーブラの主催事業を実施した。登録団体や区在住・在学者の活動支援や(協力事業)、近隣小学校との連携事業を積極的に実施した。 ・一般相談や法律相談に加え、夫婦・家庭問題専門相談を展開し、相談事業の充実を図った。 | 若者や男性のリーブラの利用を増やしていくため事業等を工夫していく。 相談事業にLGBT専門相談を導入し、全ての方が性別等にとらわれず自分らしく豊かに生きることのできる男女平等参画社会の実現を目指し、相談体制の更なる充実化に取り組んでいく。 | 総務課 人権・男女平等参 画係 | 大久保 | 2025 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 | |
|-------------------------|-----------|----|----|-------------------------------|---------------------------|---|---|---|--|--|--|---|--|--|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | | |
| 2-(2)-⑧ | 53 | — | — | エコプラザにおける環境学習などの推進 [再掲] | 地球温暖化対策担当 | 区民の環境の保全に関する理解を深めることにより、環境への負荷の少ない生活文化の形成に寄与する。脱炭素社会・自然共生型社会・循環型社会のテーマを柱とし、環境関連法令等の趣旨を踏まえた事業を実施する。また、環境学習関連図書の閲覧、区ホームページ及びSNS等の活用により、環境に関する情報を発信する。 | | | | | | | | | | |
| 2-(3)-① | 54 | — | — | PTAとの連携 [再掲] | 生涯学習スポーツ振興課 | 青少年健全育成や学校教育活動に大きく貢献しているPTAの活動を支援するとともに、PTAと連携・協働した取組を推進する。区立小・中学校PTAが主催する児童・生徒の体験(自然・交流)事業の交通費の全額又は一部補助、研修会・講演会、教育委員会との懇談会等を実施する。また、小学校PTA連合会と協働して、自分たちの住む「まち」を知り、考えることを目的とした「子どもセミナー事業」も実施する。 | | | | | | | | | | |
| 2-(3)-② | 54 | — | — | 港ユネスコ協会の支援 [再掲] | 生涯学習スポーツ振興課 | 区民の国際的相互理解及び親善を促進するため、港ユネスコ協会が実施する各国の文化を紹介する講座や、日本文化の体験講座等の活動を支援する。 | | | | | | | | | | |
| 2-(3)-③ | 54 | — | — | 青少年対策地区委員会の活動支援 [再掲] | 各総合支所協働推進課/子ども若者支援課 | 青少年の健全育成を図るため、地域における青少年対策の推進母体である青少年対策地区委員会(10地区)が実施する、みなとキャンプ村や親子レクリエーション等の活動を支援する。 | | | | | | | | | | |
| 2-(3)-④ | 54 | — | — | 芝・ネイチャー大学校における自然体験機会の創出 | 芝地区総合支所協働推進課 | 将来の芝地区を担う子どもたちの健やかな育ちのため、自然についての理解を深める体験学習を、茨城県阿見町、福島県いわき市との協働により実施する。港区では経験できない豊かな自然環境のもと、様々な体験の機会を創出することで、自然や環境への理解及び地域交流を深める。 | 11月に阿見町を訪問し、農作業体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。 | 4、6、9、11月に阿見町を訪問し、農作業体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。7月にいわき市を訪問し、乗船体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。 | 4、6、9、11月に阿見町を訪問し、農作業体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。7月にいわき市を訪問し、乗船体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。また、区内企業と5月、7月に連携事業を実施した。 | — | 20組の募集に対して4倍以上の応募があり、周知の工夫の大切さを感じた。今後もさらに多くの区民の目に届くように、SNS等を活用していく。 | 港区内の事業者との連携事業を5月、7月、8月、9月、11月、12月に全6回の体験学習を実施予定。全ての事業の参加費が無料。 | 芝地区総合支所協働推進課 | 林 | 3125 | |
| 2-(3)-⑤ | 55 | — | — | チャレンジコミュニティ大学におけるリーダー養成 | 高輪地区総合支所協働推進課 | 高齢者や今後高齢を迎える世代が今まで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また、学習を通じて、個々の能力を再開発することをめざす。さらに、高齢社会の充実のため、地域の活性化や地域コミュニティの育成の原動力として積極的に活躍する地域活動のリーダーを養成する。 | 修了生は、大学の講座を通じて習得した知識やこれまでの経験を生かし、区民参画組織の委員や民生・児童委員として地域コミュニティ作りに積極的に貢献しているほか、CCクラブとしての活動も積極的に行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、変更・中止した活動等もあった。修了生数:44人 | 修了生は、大学の講座を通じて習得した知識やこれまでの経験を生かし、区民参画組織の委員や民生・児童委員として地域コミュニティ作りに積極的に貢献しているほか、CCクラブとしての活動も積極的に行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、変更・中止した活動等もあった。修了生数:59人 | 修了生は、大学の講座を通じて習得した知識やこれまでの経験を生かし、区民参画組織の委員や民生・児童委員として地域コミュニティ作りに積極的に貢献しているほか、CCクラブとしての活動も積極的に行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、変更・中止した活動等もあった。修了生数:46人 | 新型コロナウイルス感染症の影響等もあり受講者は定員60人に達しなかった(49人)。出席日数が足りなかったため、3人は修了できなかった。 | 新型コロナウイルス感染症の影響で変更・中止した授業もあったが、対策を講じた上で令和5年度のカリキュラムを実施でき、懇親の場も設けられた。今後は、新型コロナウイルス感染症対策の影響で変更及び中止してきた事業について、どのような形式で実施していくか検討していく必要がある。 | アフターコロナを意識してチャレンジコミュニティ大学の実施及び修了生の活動を支援することで地域コミュニティのリーダーを育成する。 | (高輪)協働推進課地区政策担当 | 大野 | 3843 | |
| 2-(3)-⑥ | 55 | — | — | 地域間子ども交流～あらたなはっけん～あらたなきずな～の実施 | 麻布地区総合支所管理課/麻布地区総合支所協働推進課 | 児童に自然や農業、伝統文化などを体験できる交流事業を実施することにより、健全な育みを促すとともに他自治体への関心が深まる取組を実施する。また、地域のイベントの際に特産品の販売を行うほか、交流事業実施時に現地児童との交流を図るなど、双方向の交流事業する。 | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業を中止した。 | 山形県舟形町: 【令和4年8月5日～7日】 麻布地区サマースクールin舟形町を実施した。参加者は24名。 【令和4年10月12日】 舟形町の魅力PRイベントを実施した。 舟形中学校の2年生が特産物販売を麻布支所玄関にて行った。 埼玉県小鹿野町:荒天のため中止 | 山形県舟形町: 【令和5年8月4日～6日】 麻布地区サマースクールin舟形町を実施した。参加者は15組39名。 【令和5年10月20日】 交流50周年記念植樹を実施。 【令和5年11月7日】 舟形町の魅力PRイベントを実施した。 舟形中学校の2年生が特産物販売を麻布支所玄関にて行った。 埼玉県小鹿野町: 【令和6年1月27日】 ジオツアーin埼玉県小鹿野町を実施した。参加者は17組41名。 | 山形県舟形町: 【令和5年8月4日～6日】 麻布地区サマースクールin舟形町を実施した。参加者は15組39名。 【令和5年10月20日】 交流50周年記念植樹を実施。 【令和5年11月7日】 舟形町の魅力PRイベントを実施した。 舟形中学校の2年生が特産物販売を麻布支所玄関にて行った。 埼玉県小鹿野町: 【令和6年1月27日】 ジオツアーin埼玉県小鹿野町を実施した。参加者は17組41名。 | — | 舟形町:令和3年度は実施なし。令和4年度は、77組210名、令和5年度は44組112名の応募があり、抽選となった。対象年齢、参加費等の参加条件等について検討が必要。 小鹿野町:令和5年度は118組309名と多くの申し込みがあり、抽選となった。対象年齢、参加費等参加条件等の検討が必要。 | 舟形町:プログラムの内容については、事業終了後のアンケートで好評を得ているため、引き続き実施していく。併せて、舟形町と港区の子ども同士の交流プログラム実施について協議を図る。 小鹿野町: ・内容については参加者から好評を得ているため、引き続き小鹿野町と交流を行い、実施する。 ・令和5年度に区で初めてLOGOフォームによる参加料徴収を行ったが、事務もスムーズに行え、参加者からも好評だったため、引き続き同様の形で実施する。 | 舟形町:管理課管理係 ※R6年度より協働推進課へ移管 小鹿野町:協働推進課・地区政策担当 | 雑賀 | 3823 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------|------------------------------------|---|--|--|---|--|---|---|-----------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 2-(3)-⑦ | 55 | — | — | 子ども地域間交流事業～離れていても心は一つ!～の実施 | 赤坂地区総合支所協働推進課 | 全国連携によるお互いのまちの発展と子どもの健全育成のため、岐阜県郡上市等と子どもを中心とした交流事業を実施する。赤坂地区の小学生が郡上市を訪れ、川遊び等の豊かな自然体験や郡上市の小学生とまち散策等を行って交流を図る。また、郡上市の中学生が港区を訪れ、港区と郡上市のつながりや企業訪問等の体験学習を行うとともに赤坂地区の中学生と交流を図る。 | ・小学生交流、中学生交流ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ・小学生交流に関して、赤坂支所と郡上市との交流にかかる紹介動画を作成した。 | ・令和3年度に作った小学校交流の動画を、赤坂・青山地域にある3つの小学校でながしつづつ講演した。 ・「田舎の夏休み体験教室」を実施し、30名の児童を岐阜県郡上市へ行き、郡上の自然体験や、郡上踊り保存会の児童と交流を図った。 | — | 岐阜県郡上市と和歌山県和歌山市の交流事業を通して、お互いの発展と子どもたちの健全育成につながる事業となった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため岐阜県郡上市との事業は中止となったが、紹介動画を作成し、令和4年度の交流に活かすことができた。 | 引き続き岐阜県郡上市と子どもを中心とした交流事業を実施し、お互いのまちの発展や子どもの健全育成を図る。 | 赤坂地区総合支所協働推進課・協働推進係 | 大平 | 3832 | |
| 2-(3)-⑧ | 55 | — | — | 赤坂・青山子ども共育事業の実施 | 赤坂地区総合支所協働推進課 | 赤坂地区は、地域の子どもの向け事業に取り組む企業・団体等の人的資源や秩父宮ラグビー場をはじめとしたスポーツ関連の資源が豊富な地域である。この地域資源を活用し、子どもに関わる地域の企業・団体等とのサポートやネットワークを構築し、地域ぐるみの子育ての仕組みを整備する。また、地域の団体、企業等との連携と協働により、小・中学生、高校生を対象に「驚き、感動、気づき」から「自ら考え、行動する」へ導くよう、文化系・スポーツ系講座を実施する。 | ・文化講座 全3回 参加者12名(食品サンプルづくり体験講座は直前に中止になったため申込者54名へプレゼント送付した。) ・スポーツ講座 全2回 参加者46名 | ・文化講座 全8回 参加者114名 ・スポーツ講座 全3回 参加者96名 | ・文化講座 全8回 参加者186名 ・スポーツ講座 全3回 参加者92名 | — | 3年間の間で新型コロナウイルス感染症も落ち着き、年々講座回数や参加人数が増え、充実した事業となった。 | 引き続き子どもに関わる地域の企業・団体等とのサポートを実施するとともに、文化系・スポーツ系講座を開催する。 | 赤坂地区総合支所協働推進課・協働推進係 | 小野 | 3832 |
| 2-(3)-⑨ | 56 | — | — | たかなわ子どもコミュニティカレッジにおける交流の促進 | 高輪地区総合支所管理課 | 高輪地区内の大学と連携し、大学内に新たな交流の場を設置し、地域児童の交流を促進する。また、地域の方や大学生にも見守りなどに参加してもらうことで、地域交流及び多世代間交流も図る。地域児童を対象に大学の知的・人的資源を活用し、専門的な研究テーマをわかりやすく学ぶ機会を提供する。事業の運営については、地域の方や大学生と協働して取り組む。 | 主な実施事業 ・子ども教育支援教室 ①電車模型工作 ②謎解きクイズ大会 ③ダンス教室 等 ・放課後の居場所づくり事業 東海大学への入構が禁止されており、事業を中止 | 主な実施事業 ・子ども教育支援教室 ①楽器制作 ②クイズ大会 ③ダンス教室、英会話、プログラミング 等 ・放課後の居場所づくり事業 東海大学への入構が禁止されており、事業を中止 | 主な実施事業 ・子ども教育支援教室 ①楽器制作 ②クイズ大会 ③ダンス教室、英会話、プログラミング 等 ・放課後の居場所づくり事業 東海大学への入構が禁止されており、事業を終了となった。 | ・放課後の居場所づくり事業については、新型コロナウイルス感染症や学部増等の事情により、大学構内の空き教室を確保することが困難になったため。 | 東海大学と連携し、大学の知的・人的資源を活用した専門的なテーマを地域の児童がわかりやすく教わる機会を提供することで、大学生と児童との世代間交流を図ることができた。また、北里大学、明治学院大学へ働きかけ、令和5年度から新たに連携を開始した。 | 地域に大学生の活躍するコミュニティを創設していくため、東海大学だけでなく、高輪地区にある北里大学、明治学院大学との連携を深め、コミュニティカレッジ事業を拡大する。 | 高輪地区総合支所管理課管理係 | 塚口 | 3840 |
| 2-(3)-⑩ | 56 | — | — | 歴史と文化がたが地域交流事業の実施 | 芝浦港南地区総合支所協働推進課 | 芝浦港南地区と交流のある秋田県にかほ市や福島県柳津町とのつながりを生かし、子どもたちをはじめとした住民同士がお互いの地域を訪れ、文化や歴史にふれる機会を提供する。また、互いの地域の魅力や歴史を理解するなど有意義な交流を継続することにより、更なる相互の地域発展をめざす。 | 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 | 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 | ・秋田県にかほ市との交流事業を実施した 8月16日～8月18日 ・福島県柳津町との交流事業を実施した 8月10日・11日・2月23日 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を中止したため。 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度・4年度は中止を余儀なくされた。しかし、令和5年度には、計画通り実施することができた。 | 引き続き、秋田県にかほ市及び福島県柳津町との交流を行うとともに、相互の魅力をPRすることで、さらなる地域発展を目指す。 | ・にかほ市交流事業協働推進係 ・福島県柳津町交流事業台場担当 | ・にかほ市交流事業 河西 ・福島県柳津町交流事業 若林 | ・河西 3854 ・若林 03-5500-2365 |
| 2-(3)-⑪ | 56 | — | — | 港区スポーツふれあい文化健康財団の支援 | 地域振興課/国際化・文化芸術担当/健康推進課/生涯学習スポーツ振興課 | コミュニティの振興を図ることで健康で文化的な区民生活の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が区民センター等で実施する、スポーツや文化、生涯学習、健康増進に関する様々な事業を通じて、コミュニティづくりを支援する。 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業手法の変更はあったが、「WEBでみなと区民まつり2022」の実施のほか、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する、スポーツ、文化、生涯学習、健康増進、コミュニティの各分野に関する事業において、財政面から支援を行った。 | 4年ぶりに会場形式での開催となったみなと区民まつりの実施のほか、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する、スポーツ、文化、生涯学習、健康増進、コミュニティの各分野に関する事業において、財政面から支援を行った。 | — | 効果的・効率的な事業を目指す事業のスクラップアンドビルドの実施及びオンラインによる事業の推進 | 引き続き、MINATOシティハーフマラソンやみなと区民まつり等、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する事業において財政面から支援を行う。 | 地域振興課・地域振興係 | 遠藤 | 2532 | |
| 3-(1)-① | 57 | — | — | 生涯学習講座提供事業(まなび屋)の充実 | 生涯学習スポーツ振興課 | 知識や技能を身につけた区民等が、教えたい講座を区に登録し、学びたい区民団体等の依頼に応じてボランティアで講座を実施する。生涯学習センターでは「教えたい人」と「学びたい人」をつなぎ、登録された講座の利用を促進する。 | 区ホームページやSNS等で事業の情報発信をしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が低迷している。 | 区ホームページやSNS等で事業の情報発信を行った。また、全講師宛にオンラインで講座が実施できるか調査を行った。 | 区ホームページやSNS等で事業の情報発信を行った。また、「みなとNEWS」で事業内容の動画配信を行った。 | — | 利用率が低いいため、さらに認知度を高める取組が必要 | 利用促進のための情報発信を引き続き実施するとともに、オンラインによる講座実施に向けた検討を行う。 | 生涯学習スポーツ振興課生涯学習係 | 柳下 | 2743 |
| 3-(1)-② | 57 | — | — | 社会教育関係団体の活動成果の発表 | 生涯学習スポーツ振興課 | 社会教育関係団体の日ごろの活動成果を発表する「フェスティバル」を開催する。フェスティバルでは、社会教育関係団体が舞台発表、活動体験、展示発表等を行い、学習活動の成果を発表する場を提供するほか、団体同士の相互交流・親睦を図る。また、地域との関係をより一層強化する。 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、動画撮影形式で縮小開催となったが、社会教育関係団体等が日頃の学習成果を発表するフェスティバルを開催した。当日は、48団体が参加した。 | 3年ぶりにステージ発表や出店を復活させ、社会教育関係団体等が日頃の学習成果を発表するフェスティバルを開催した。当日は、53団体が参加した。 | — | フェスティバルを開催することで社会教育関係団体等の学習成果を発表の場を提供できた。 | 引き続き、社会教育関係団体等が日頃の学習成果を発表する場を設けていく。 | 生涯学習スポーツ振興課生涯学習係 | 若松 | 2744 | |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|---|---------------------------|---|--|--|---|--|---|---|--------------------------|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 3-(1)-③ | 58 | — | — | 協働参画体験講座 の開催 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 多様な知識や技術を有する社会教育関係団体の協力を得て、気軽に参加できる語学や工芸等の体験講座を開催する。講座では、社会教育関係団体が講師となり、団体の学びを発表する場とするとともに、参加者へ活動を紹介し、社会教育関係団体の活性化を図る。また、より多くの区民が興味・関心を持てるよう、協働参画体験講座を区ホームページで動画配信し、幅広く団体の活動を紹介する。 | ・協働参画事業を実施(6講座) ・協働参画事業を区ホームページで動画配信し、団体の活動を紹介した。 | ・協働参画事業を実施(11講座) ・協働参画事業を区ホームページで動画配信し、団体の活動を紹介した。 | ・協働参画事業を実施(8講座) | — | ・社会教育関係団体等の協力を得て協働参画事業を実施したが、新たに講師となる団体が不足している。 ・社会教育関係団体等への活性化を図る。 | 引き続き、社会教育関係団体研修等を通じて協働参画事業について周知することにより、新たな協働参画事業の企画に取り組む。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 若松 | 2744 |
| 3-(1)-④ | 58 | — | — | 芝の語り部養成講座 の開催 | 芝地区総合支所協働推進課 | 芝地区の魅力を区内外に発信するための人材を養成する、芝の語り部養成講座を実施する。カリキュラムの内容は、芝地区の歴史やガイドの講義、まち歩きツアーの実践など。講座修了後は、「芝の語り部」としてまち歩きツアーのガイド等を担う。 | ・芝の語り部養成講座において、基本講座を6回実施し、5人参加。 ・スキルアップ講座を4回実施し、6人参加。 | ・芝の語り部養成講座において、基本講座を6回実施し、16人参加。 ・スキルアップ講座を4回実施し、13人参加。 | ・芝の語り部養成講座において、基本講座を6回実施し、6人参加。 ・スキルアップ講座を4回実施し、2人参加。 | — | コロナ禍で、周知方法は広報みなどの掲載、応募方法はみなどコールでのみだった。また、講座内容については、欠席者へのフォローや、講座終了後にスタッフとして活躍できるようなフォローを検討する必要がある。 | 周知方法については、芝地区総合支所公式SNSを活用し、応募方法については、Logoフォームにより、いつでも受け付けられるよう取り組む。講座については、全10回の参加が前提だが、内容を動画で収録し、見返せるようにする。 | 芝地区総合支所協働推進課 | 藤田 | 3193 |
| 3-(1)-⑤ | 58 | — | — | チャレンジコミュニ ティ大学における リーダー育成 [再掲] | 高輪地区 総合支所 協働推進 課 | 高齢者や今後高齢を迎える世代が今まで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また、学習を通じて、個々の能力を再開発することをめざす。さらに、高齢社会の充実のため、地域の活性化や地域コミュニティの育成の原動力として積極的に活躍する地域活動のリーダーを養成する。 | | | | | | | | | |
| 3-(1)-⑥ | 59 | — | — | 観光ボランティア の支援 | 観光政策 担当 | 国内外から訪れる観光客のニーズにきめ細かく対応するため、観光ボランティア育成講座受講修了生を対象にしたスキルアップ講座を行うとともに、一般社団法人港区観光協会と連携して観光ボランティアのガイド活動を支援する。 | ・スキルアップ講座全5回:受講者数229人(合計) ・ボランティアガイドと連携した観光案内者数:237人 | ・スキルアップ講座全5回:受講者数170人(合計) ・ボランティアガイドと連携した観光案内者数:623人 | ・スキルアップ講座全4回:受講者数116人(合計) ・ボランティアガイドと連携した観光案内者数:624人 | ・スキルアップ講座はオンライン講座2回と参集講座2回のハイブリッド型で実施した。 ・ガイドと連携した観光案内者数は、感染症の影響から観光客が減少したため、実績は見込みより少ないが、徐々に回復傾向にある。 | ・令和6年度から港区観光ボランティアガイド育成講座を再開するため、ガイドとして活動していただけるよう講座内容を充実させる。 ・スキルアップ講座については、オンライン・参集型の講義を設け、ガイドとして実践的な知識や緊急時の対応を学べるような内容とする。 ・ガイドと連携した観光案内については、観光客のニーズを捉えた案内や、区のイベントと連携した活動を通じて、より効果的に港区の魅力を発信できる取組を検討していく。 | 産業振興課・観光政策担当 | 鈴木 | 3935 | |
| 3-(1)-⑦ | 59 | — | — | 介護予防リーダー の養成 | 高齢者支 援課 | 地域における介護予防の担い手として活動する人材を養成するため、20歳以上の区民を対象に、介護予防に必要な知識を学ぶ介護予防リーダー養成講座を実施する。また、自主活動等支援のためのフォローアップ研修を実施する。 | ・予防リーダー養成講座実施:7名養成 ・フォローアップ研修実施:2回 | ・介護予防リーダー養成講座実施:11名養成 ・フォローアップ研修実施:2回 | ・ボランティアガイドと連携した観光案内者数:624人 | — | ・実績値の伸びは少なかった。 ・20代から70代と幅広い世代から参加があった。地域活動を受講前から開始している人もいて、介護予防に意欲を持つ人が多かった。 | 高齢者支援課・介護予防推進係 | 栗田 | 2931 | |
| 3-(2)-① | 60 | ○ | — | 学びの循環の仕組 みづくり | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 学びをとおして地域や世代を超えた人のつながりが生まれるよう、学びの成果を生かした人や、学びをとおして社会に参加したい地域の人が集い、自主的・主体的に講座や事業等を企画する、みなと学びの循環事業を実施する。区は、企画会議において、企画の自主運営方法等の学習・実践の場を提供するとともに、あらゆる年代の人々と話し合う機会を提供する。参加者が様々な人々と交流することで、自らの学びを深め、他者へ伝えていく過程を習得し、それを自主的・主体的な地域活動等に生かすことで、学びの循環を生み出す。 | ・前期、後期でそれぞれ参加者を募集し、SDGsをテーマにした講座をオンラインで2回実施した。 ・前期:「1貧困をなくそう」「7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」参加者32名 ・後期:「5ジェンダー平等を実現しよう」「14海の豊かさを守ろう」参加者30名 | ・SDGsをテーマに、学びの活動を広げたい人やワークショップの手法を学びたい人に向けたオンライン講座を実施した。 「4質の高い教育をみんなに」「12つくる責任つかう責任」参加者29名 | 関東大震災から100年目ということで「港区×防災」をテーマに、学びの活動を広げたい人やワークショップの手法を学びたい人に向けたハイブリッド方式(参集とオンライン)で講座を実施した。 参加者46名 自主活動に係る講師謝礼負担事業 1件実施 | — | コロナ禍で事業の手法を従来の参集型からオンライン型に変更したことで、いつでもどこでも参加できるようになったこと、区の生涯学習事業に初めて参加した方が多く、これまでの参加者は60代以上が中心だったが、小学生や30代から40代等の新しい層の参加があった。令和5年度は、区民の自主活動を支援する取組ができた。 | 令和6年度から生涯学習センターに事業を移管した。今後は、生涯学習センターで実施される講座に出向き、自主活動に係る講師謝礼負担事業の周知を行い支援する。引き続き、事業の効果(事業終了後、自身の生涯学習活動が広がっているかや意識変化等)を図るアンケートを実施し、本事業が学びの循環につながっているかを検証する。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 鈴木 | 4709 |
| 3-(2)-② | 60 | — | — | さくらだ学校の運 営 | 生涯学習 スポーツ 振興課 | 生涯を通じていきいきと暮らしていける社会を実現するため、高齢者等が講座を企画、立案及び運営し、仲間づくりや社会に関わる機会を設ける。講座を開講するに当たり、在任及び在勤者から企画運営委員を募集し、生涯学習センターと企画立案や講座運営を行う。 | ・さくらだ学校企画運営委員講座を4回実施(参加人数延べ64名) ・区民等で構成する企画運営委員会を5回実施(企画運営委員計7名) | ・さくらだ学校企画運営委員講座を5回実施(参加人数延べ79名) ・区民等で構成する企画運営委員会を5回実施(企画運営委員計7名) | ・さくらだ学校企画運営委員講座を4回実施(参加人数延べ56名) ・区民等で構成する企画運営委員会を5回実施(企画運営委員計8名) | — | 高齢者が企画立案・運営等に関わるさくらだ学校企画運営委員講座を実施した。 | 引き続き、高齢者等がいきいきと暮らしていく社会を実現するため、企画立案・運営等に関わるさくらだ学校企画運営委員講座を実施していく。 | 生涯学習スポーツ 振興課 生涯学習係 | 若松 | 2744 |

| No. (基本目標- 施策-事業) | 掲載 ページ | 重点 | 新規 | 事業名 | 担当課 | 計画に記載している 事業・取組の内容 | 実績 | | | 実績が計画と 異なる理由 | 前期3年間(R3～R5)の評 価と事業の課題 | 今後の取組 | 担当課・係 | 担当者名 | 内線 |
|-------------------------|-----------|----|----|----------------------------|---------------|--|---|---|--|---|---|---|----------------------|------|------|
| | | | | | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | | | | | | |
| 3-(2)-③ | 61 | — | — | ご近所イノベーション学校の実施 | 芝地区総合支所協働推進課 | 地域にかかわる一人ひとりが「やりたいことをまちなにつなげる」ことで実現する新しい地域づくり(=「ご近所イノベーション」)を、様々なかたちで支援する「ご近所イノベーション学校」を実施する。講座をとおして、地域コミュニティを活性化し、人と人、組織と組織をつなぐことができる「人材(じんざい)」を養成する。また、講座修了生が地域団体や芝の家、ご近所ラボ新橋など、芝地区で地域活動を進めるための情報提供や継続的な支援を行う。 | ・ご近所イノベーション学校を開校し、ご近所イノバタ養成講座を全9回実施した。 ・修了生には芝の家やご近所ラボ新橋などの情報提供を行った。 | ご近所イノベーション学校を開校し、ご近所イノバタ養成講座を全9回実施した。 修了生には、活動の参考になる資料等の提供を行い、活動の幅を広げることができた。 | ご近所イノベーション学校を開校し、ご近所イノバタ養成講座を全9回実施した。 修了生には、活動の参考になる資料等の提供を行い、活動の幅を広げることができた。 | — | コロナ禍での事業実施もあつたが、感染症対策として、対面とオンラインのハイブリット形式で講座を実施出来た。講座の周知を進めることが課題であるので、芝地区公式SNSを活用し広く発信していく。 | 人材を育て、芝地区総合支所の地域事業やふれあいまつりに参画するなど、活動の場を広げる。 | 芝地区総合支所協働推進課 | 阿部 | 3124 |
| 3-(2)-④ | 61 | — | — | あざぶ達人ラボ～次世代へつなぐ麻布の魅力～の開催 | 麻布地区総合支所協働推進課 | 区民等が、麻布地区の歴史や文化などの魅力を知り、知ったことを次世代へ語り伝えていくことで、地域への関心や愛着を深めてもらうことを目的とした事業である。麻布の歴史や文化などの魅力を伝える講演会や公開セミナー、まち歩きや子どもを対象としたイベントの開催、また、他の地域事業との連携を図るなど、麻布の歴史を語る活躍の場を創出することで、区民等に対して麻布の魅力を学ぶ機会を提供していく。 | ・全体会：3回 ・講演会：1回(113名) ・連携事業：1回 ・まち歩き：中止 | — | — | 令和5年度講演会「高峰秀子と松山善三が暮らしたまち」は、受付開始日に定員が埋まるほどの人気だった。 | ・令和6年度より、区民参画組織の見直しに伴い「麻布地域の魅力伝承事業」としてリニューアルスタートする。 ・新規メンバーの引き続きの募集と育成を行い、麻布の歴史を語る活躍の場や魅力を学ぶ機会を提供する。 | 麻布地区総合支所協働推進課・地区政策担当 | 雑賀 | 3823 | |
| 3-(2)-⑤ | 61 | — | — | みんなでまちをよくする「ミナヨク」の実施 | 麻布地区総合支所協働推進課 | 地域に愛着を持って地域活動を行う「地域サポーター」として活躍できる人材を発掘・育成し、新しい地域のつながりを構築していくことを目的とした事業である。「麻布地区をみんなよくする地域活動」に興味がある在住・在勤・在学者等を対象として、「ミナヨク」参加者のアイデアの創出・実現に向け、「ミナヨク」修了生や地域との連携を支援するとともに、「ミナヨク」修了生同士の交流の場を創出し、継続的に地域コミュニティに関わりが持てる取組を実施する。 | オンライン及び対面講座：7回 修了生：8名 | オンラインと対面のハイブリット講座：7回 修了生：12名 | オンラインと対面のハイブリット講座：7回 修了生：6名 | — | ・前年の修了生がサポーターとして入ってもらうことで、運営の幅が広がった。 ・修了生が地域コミュニティと連携した事業を展開し始めている。 | ・より多くの区民が参加するよう、SNS等での周知活動を増やす。 ・修了生の活動を引き続きサポートする。 | 麻布地区総合支所協働推進課・地区政策担当 | 雑賀 | 3823 |
| 3-(3)-② | 63 | — | — | 青少年の健全育成のための支援 | 生涯学習スポーツ振興課 | 青少年教育の振興を図るため、区立中学校区ごとに地域人材を青少年委員として委嘱し、青少年の余暇活動の充実や地域活動の推進、青少年団体の育成支援等を行う。青少年委員は、地域における青少年指導者・育成者として、教育委員会及び学校や地域の関係機関と連携を図りながら、「平和青年団派遣」や区民まつり、「成人の日記念のつどい」、その他、地域活動を通して、青少年の健全育成をめざし活動する。 | 「みなとキャンプ村」や各地区のイベントで中止になったものもあるが、感染症対策を講じながら実施したイベントもあり、青少年の健全育成を目指し活動する青少年委員を支援した。 | 新型コロナウイルス感染症の緩和に伴い、令和3年度に比べ区の事業や各地区のイベントなど実施できたものが増えた。青少年の健全育成を目指し活動する青少年委員を支援した。 | 令和4年度に比べ、さらに区の事業や各地区のイベントなど実施できたものが増えた。青少年の健全育成を目指し活動する青少年委員を支援した。 | — | 新型コロナウイルスの影響で実施できるイベント等が制限されていたが、緩和に伴い、実施できる活動が徐々に増えてきている。 | 引き続き、青少年教育の振興を図るため、青少年の余暇活動の充実や地域活動の推進、青少年団体の育成支援等に努める。 | 生涯学習スポーツ振興課・生涯学習 | 須藤 | 2742 |
| 3-(2)-③ | 63 | — | — | 学校施設開放の活用推進 | 生涯学習スポーツ振興課 | 区民が地域の身近な場所で生涯学習やスポーツ活動、コミュニティ活動を行えるよう、地域の学習資源である学校施設を開放して活動を支援する。なお、開放に当たっては、学校教育に支障のない範囲で実施する。 | ・登録団体以外の一般団体にも開放した。 ・令和3年度利用実績：15,532件、417,191人 | ・登録団体以外の一般団体にも開放した。 ・令和4年度利用実績：12,609件、403,901人 | ・登録団体以外の一般団体にも開放した。 ・令和5年度利用実績：21,103件、567,400人 | — | システム化の導入により、地域のスポーツ活動団体へ地域に身近な場所でのスポーツ活動の場をより提供することができた。 | システム化による利用者の利便性向上と学校側の負担軽減を図りながら、施設開放の取組を実施する。 | 生涯学習スポーツ振興課・スポーツ振興係 | 有地 | 4708 |
| 3-(2)-④ | 63 | — | — | 港区が有する強みを生かせる人材の育成 [再掲] | 産業振興課 | 公的研究機関等と連携しながら、新規採用社員を対象とした「基礎育成コース」を始め、新技術の習得をめざす「新製品・新技術習得コース」、海外も視野に入れた更なる販路拡大をめざす「グローバルビジネスコース」といった多彩な研修プログラムを区内中小企業に提供し、高度な専門性と実行力を有する企業人材の育成を支援する。 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 3-(2)-⑤ | 63 | — | — | 消費者問題推進員の育成・支援 [再掲] | 産業振興課 | 区内に居住する20歳以上で、区が開講する一定の講座を修了した人が消費者問題推進員に登録をして、区が実施する出前講座の講師や、区及び関係団体が開催する各種催しで、普及啓発などの活動を行う。区民の消費生活の安定及び消費者知識の向上を図るため、消費者問題を啓発していく。 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 3-(3)-⑥ | 63 | — | — | 地域防災を担う人材の育成 [再掲] | 防災課 | 防災住民組織の防災力の強化を図るため、地域の防災活動などを支援する人材として、「防災士」を活用する。さらに、防災住民組織で活動する人材の知識や技能の向上、地域での活動へ参画するきっかけづくりを支援する。 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 3-(2)-⑦ | 64 | — | — | みなと環境にやさしい事業者会議の支援 | 地球温暖化対策担当 | 事業者、区民及び区が連携し、新しい協働の場を確保して環境保全活動に取り組むことを目的とした任意団体「みなと環境にやさしい事業者会議(通称:mecc(メック))」を平成18(2006)年5月に設立した。会員事業者が中心となって、区内で打ち水や清掃活動、子ども向けのワークショップなどの環境保全に関する普及・啓発活動を実施する。 | しいたけ栽培を通して循環社会等について学ぶ、親子向けワークショップ「しいたけ栽培にチャレンジしてみよう!」を実施し、80人が参加した。 | 親子向けワークショップ参加者数:計117人 | 親子向けワークショップ参加者数:計156人 | — | コロナ禍で実地開催ができない年もありましたが、打ち水や清掃活動の実施等、多くの環境保全に関する普及・啓発活動を実施することができました。 | 今後も会員事業者同士が相互に連携を図り、充実した内容のワークショップや環境保全活動を実施する。 | 環境課地球環境係 | 増井 | 2498 |